

令和4年3月遠野市議会定例会会議録（第2号）

令和4年2月28日（月曜日）

議事日程 第2号

令和4年2月28日（月曜日）午前10時開議

第1 一般質問

本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（佐々木敦緒、萩野幸弘、小松正真、新田勝見、菊池美也議員）
- 2 散 会

出席議員（17名）

- 1 番 小 松 正 真 君
- 2 番 佐々木 恵美子 君
- 3 番 菊 池 浩 士 君
- 4 番 佐々木 敦 緒 君
- 5 番 佐々木 僚 平 君
- 6 番 小 林 立 栄 君
- 7 番 菊 池 美 也 君
- 8 番 萩 野 幸 弘 君
- 9 番 瀧 本 孝 一 君
- 10 番 多 田 勉 君
- 12 番 菊 池 巳 喜 男 君
- 13 番 照 井 文 雄 君
- 14 番 荒 川 栄 悦 君
- 15 番 安 部 重 幸 君
- 16 番 新 田 勝 見 君
- 17 番 佐々木 大 三 郎 君
- 18 番 浅 沼 幸 雄 君

欠席議員

- 11 番 菊 池 由 紀 夫 君

事務局職員出席者

- 次 長 千 葉 芳 治 君
- 主 査 多 田 倫 久 君

説明のため出席した者

- 市 長 多 田 一 彦 君

- 副 市 長 鈴 木 惣 喜 君
- 総務企画部長 鈴 木 英 呂 君
- 兼新型コロナウイルス対策室長
- 健康福祉部長兼健康福祉の里所長 菊 池 寿 君
- 兼地域包括支援センター所長
- 健康福祉部医療連携特命部長 佐々木 一 富 君
- 兼総務企画部新型コロナウイルスワクチン接種対策室長
- 子育て応援部長 磯 谷 洋 子 君
- 兼総合食育課長
- 産 業 部 長 阿 部 順 郎 君
- 環境整備部長 奥 寺 国 博 君
- 兼まちづくり推進課長
- 会 計 管 理 者 鈴 木 純 子 君
- 兼 会 計 課 長
- 消防本部消防長 三 松 丈 宏 君
- 市民センター所長 新 田 順 子 君
- 市民センター多文化共生・本の森特命部長 石 田 久 男 君
- 教 育 長 菊 池 広 親 君
- 教育委員会事務局教育部長 伊 藤 貴 行 君
- 兼学校教育課学校総務担当課長
- 選挙管理委員会委員長 多 田 功 一 君
- 職 務 代 理 者
- 代表監査委員 佐々木 資 光 君
- 農業委員会会長 千 葉 勝 義 君

午前10時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） おはようございます。
 これより本日の会議を開きます。
 本日の欠席の届出議員は、11番菊池由紀夫君
 であります。

日程第1 一般質問

○議長（浅沼幸雄君） 次に、日程第1、一般
 質問を行います。順次質問を許します。4番
 佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 佐々木敦緒でありま
 す。水田活用の直接支払交付金の拡充・見直し
 について及び除雪対策の2点を、市長に一問一
 答方式により質問します。

さて、一般質問、議員が、市政全般の執行状
 況や将来の方針等を市長に直接たずねます。つまり、
 市長が市民のために適切な市政運営をしている

のか、業務監査機能、そして政策提案機能と認識しております。

私はこれを心に質問書を練り上げ、通告後、市職員のヒアリングに応じるも、これまで質問と答弁がかみ合うことは少なかった。多田市長には自らの言葉で臨まれ、市民に希望を与える首長たることを期待するものであります。

除雪対策、平成30年12月の定例会では、鳥獣被害対策と併せて質問しています。このことについて少し触れさせていただきます。

岩手県は県内に生息するシカの数をも10万7,000頭、遠野を含む北上高地南部地域は8万7,000頭と、平成30年の調査により推定した。1年間の駆除の数は、県全体で2万5,000頭、本市遠野市では約4,000頭の実績。これでは減るはずもなく、想像を超える勢いで増え続ける。そのとき私は和歌山県で実績のある、夜間、銃による猟や、草地へ囲み罠の設置、あるいは鳥獣捕獲アドバイザーの委嘱も提案した。私の提言は活かされているのでしょうか。

さて、去る1月24日、26日の両日、東北農政局から水田活用の直接支払交付金の拡充・見直し案の説明があった。私は昨年11月に、この見直し情報を得たとき、遠野の農業に影響が大きい重大な事案と認識していた。北海道や青森県などでは対応が素早かった。見直し案の情報を得てすぐと認識しておりますが、国や関係機関に受入れはできないとの要望活動を行っている。

本市では先頃、農業再生協議会の臨時総会等を開催し、遠野市の生産者の総意により反対すると要望書の提出を決めた。市議会も産業建設常任委員会で見直し案は撤回することの意見書を練り上げ、政府へ提出することを本会議で議決した。国で示す交付金の拡充・見直し案、市長はこれをどのように捉えておいでか、お伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私も議会に臨むに当たって、同じような思いで本日まいりました。答

弁を始める前に、つい5日前、ウクライナ、ロシアが侵攻しました。本当に悲惨な状況が伝わってきます。人災、天災、様々なことに悩まされながら、市民は生きていかなければいけない。本当にこれは大変なことだと思います。東日本大震災経験をした我々としては、一刻も早く解決して、平和に暮らせるような日々が来ることを願わずにはられません。まずそのことを最初にお話ししたいと思いました。

そして、敦緒議員の質問です。11月、市長に就任しまして、すぐ全国市長会ございました。まずこの問題っていうのは早く情報が入ってましたから、様々な要望とは別に私もあらゆる機会をお願いをしてみました。ゆゆしきことです。多年生牧草の基準単価を3万5,000円から1万円にする。そして水田、5年に一度の水張りをする。遠野の農業は57%畜産、牧草、転作については50%です。これは死活問題です。遠野にとって耕畜連携の農業を進める上で、とんでもないことだというふうに認識しております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 私は4度開催された交付金の拡充・見直し案の説明会に3度参加し、その都度強く反対意見を申し述べました。資料では、令和4年度農林水産省の予算概算決定額は前年度同額3,050億円確保とある。見直し必要がどこにあるのかと不思議に思った。

説明会の目的は様子見もあると察し、先ほど市長も答弁でお話しされましたが、5年に一度米を作れと言われても、中山間地帯はほとんどが10アール未満の小水田、畜産農家は牧草やデントコーンへの転作、これを大型機械で作業するには畦畔を外すしかない。

また、畜産専門農家には田植機もコンバインも既になくしている。米を作れと言われても無理なこと、国の案は机上案、現場では出来かねることを押しつけるもの。県選出国會議員へも、この旨申し入れる用意もあると強く抗議したところでございます。参加者農家も同様の意見で

あった。

農政局の職員は本庁農林水産省へ伝えると話されたが、その後の経過は伝わらない。近頃、国会では見直しの激変緩和など追加的な策を考えるよう政府に迫る。あるいは見直し自体を白紙とするよう求めるなど、活発な動きが新聞紙上で見られる。

市長は今回の事案、市民の代表、農民の代表として、どのような行動を取られたか。先ほど少しはお伺いしましたが、また今後、どのように立ち向かうおつもりか、お考えをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まずはじめに反対の立場で、しっかりと意見を言い、白紙撤回を求めるといふことをお伝えします。

11月に市長になって以来、鈴木財務大臣、先日は公明党の参議院議員の方にもお会いしました。そして副知事、知事、直接申し上げました。副知事については、遠野からしっかりと反対であることを公表し、各市町村市長会にもその同調をお願いしていきたいということをお申し上げしましたところ、それは賛成だというお言葉を頂きました。それによって、様々な機会にチャンネルを増やしなが、反対の意見を陳情しております。

しかしながら、良い答えはいまだに頂いておりません。非常に残念であります。一市町村が立ち向かうということは大変なんですけれども、小さなところから声を上げて、しっかりとそれが日本中に広がるように。遠野市だけではありません。他の市町村とも協力しながら進めていきたいというふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 力強い御答弁をいただきました。今後も継続して、そのようにしていただきたいと思いますというふうに思います。この見直し案によって、畜産市遠野の農業は危機に直面する。市長もそのように受け止めている

ようでございますが、本市の水田面積は2,528ヘクタール、転作面積は1,323ヘクタール、この中で飼料作物への転作は620ヘクタール、そのうち販売あるいは畜産農家と供給契約を取り交わし、水田活用の直接支払交付金10アール当たり3万5,000円の交付を受けるのは571ヘクタール。

これが見直し案では、先ほどの答弁のとおり。2万5,000円も減額され、1万円になる。牧草の種を播種した年のみ3万5,000円が交付となるものの、見直し案を基に試算すれば、毎年受け取っていた交付金は、遠野市全体で1億円以上も減る見込み。農地を集積して大規模に経営し、転作に協力する農家ほど大打撃を被る。そればかりか、農業資材や化成肥料の販売店など商工業者まで影響が及び、市全体の経済が低迷すると推測される。

さらに転作水田は5年に一度の水張り、米の栽培が条件となる。中山間地域では農地の集約ができていないため、大豆や麦と米のローテーションは極めて難しい。畜産農家は、米を作った秋に永年生牧草の種を播種しても、翌年は収穫ができなく、2年間牧草の供給が止まる。

国は家畜の餌対策を見落とした上に5年間に一度も作らない農地は、水田台帳細目書から除外し、交付金の対象から外すとの計画。畜産農家はこう話す。「賃貸料を支払えば採算が合わない。借りている農地は返して、牧草の供給は自己所有地のみにする。牛の餌の牧草が減るので頭数を減らすしかない」と。

また農地を返される農家は高齢者が多い。耕作放棄地の増加へと進み、土地改良区の維持管理への影響等から農地は荒れ、永遠の日本のふるさと遠野の景観は一変すると私は危惧する。

この見直し案はどうかして阻止し、あるいは見直し案の見直しを、国や県選出国會議員に継続して訴えることが必要と私は考えます。市長はこの見直し案によって実施された場合、遠野の農業、農村がどのようになるとお考えか、御所見をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ただいま議員おっしゃったとおり、これはとんでもないことですから、様々な経費、例えば農業機械もそうです。飼料もそうです。借りている賃料、これもそうです。経費に圧迫されます。しかもこの、燃料が高騰してるときにです。

そして、それならば農地を返してしまう。こういうことになってしまいます。そして、さらに粗飼料が減ります。畜産業、本当に遠野の中では中心的な農業、それにも関わらず餌が減るということです。こういう悪循環を招いていくことは、政策として本当によくないと私は思います。

そして、播種をした場合、3年目ぐらいですか、適正に取れていって8年まで取れる。それを5年でやめてしまうということは、結局いいところで一回駄目にしなさいと。農家の人は、自分が一生懸命土に手をかけたら、それを無にされることが一番嫌なんじゃないでしょうか。これは本当に大きな問題であります。

また、ブロックローテーションを考えて、様々な作物をこうしよう、ああしよう考えていますね。これも土に手をかけるわけです。この効果もなくしてしまえということです。これは本当にとんでもないことだというふうに考えています。

また、土地改良区、これは皆さんの様々な苦勞で成り立っているわけです。土地改良区が成り立たなくなるんじゃないかと。つまり放棄地が出る。負担金を払いたくない。こういうことになる。中山間に関すること、多面的機能に関すること、全てに影響が出てきます。つまり、何とかそれで頑張って地域も農業も守ってきた。この糧が外れる。そういうふうになっていく。つまり衰退に向かうというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） これまで遠野の農家は交付金を活用し、転作に最大限協力してきた。にも関わらず、今年の米価は1俵を1万円を下

回る大暴落。悲惨なところへ、今般、国は一方的に制度を見直しして、受入れを地方公共団体や地方自治体や農業現場に迫る始末。農家の怒りは極限に達しています。これに近年のシカによる被害も重なり、営農意欲をなくしたとの声が聞こえる。

農業委員会等に関する法律第38条第1項には、必要と認めたときは農業施策を計画立案して、関係地方公共団体等に意見書を提出しなければならないと規定されている。今、農業現場に押し寄せる荒波を鑑みれば、農業委員会から意見書が提出された、あるいは何らかの提言・報道があったと推察します。その内容とそれに基づいて、市長は今後どのように対応するおつもりかをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 本年1月に農業委員会と意見交換をいたしました。これはもう言うに及ばず意見は同じであります。したがって、遠野市、遠野市議会、同調して、農業委員会も同じ考えであるということでしたから、特に意見書の提出については行わないということでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 意見交換をしたからそれでよしというふうな御答弁でございましたが、意見書の提出はなかったと。農業委員は農業現場に精通する認定農業者を半数以上にしなければならないとの規定に基づき、市長は農業の専門家、認定農業者の数を確保した19名を議会の同意を得て選任していますから、農業施策の意見書、その内容を期待し、お聞きしたところでございます。

次の質問に移ります。

除雪対策、平成30年に続いての質問であります。

市道の総延長、その時点で1,306.9キロメートル。遠野市から広島県までの距離、この維持管理や除雪作業に従事される土木建設会社、市

職員の皆様には心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、除雪、市民の皆様から多くの声が届く。それを踏まえ、状況把握に努めており、これに照らして質問します。

国道や県道、昼夜を問わずの除雪により県民の足を確保している。私はこれを高く評価しています。降雪が少なくても、早朝、融雪剤を散布している。本当に感心します。市道の除雪、夜間や早朝ばかりか、この冬出動が少なかったように思う。そのため圧雪となり、深いわだちができた。それにはまり、スピンして道路の外にはじき出される車も多かった。歩行者の転倒も目にした。すれ違いができないところもあり、「いつもの年と違って、この冬の除雪は不親切」と市民の声が聞かれました。

これは雪が降っても除雪の基準となる深さ10センチに満たない日が多くて出動が少なかったからか、または除雪費が不足し出動を控えたのか。土木建設業者が減り、除雪担当路線が増え、回り切れなかったのか。はたまた安全対策のため夜間は作業を控えるとの市の方針なのか。急にこのようになったのはどうしてか。その要因をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 11月に市長に就任して以来、当然冬のことも気になります。除雪計画というのがございます。遠野市はもちろん雪も降ります。寒いです。除雪というのは、もうここ何十年、それこそ市が手がけてきたことでございます。当然しっかりした計画の下に進められていると私は思いつつも、今年の除雪についてどのような形なのかということを確認しました。

業者は17者、1者減ったということですね。距離に関してはほぼ同一、基準についてもほぼ同じです。これまでの費用、今回補正もございます、1億8,000万円でございます。決して小さい額ではありません。回数も減るということはありません。積雪量、これも多いとき、もっ

と多いときがたくさんあります。そのときに幾らぐらいかかったかっていう経費を見ますと、今年ほどかかっていない部分もあります。様々な高騰というものはあるかもしれません。しかし、私もちょっと不思議に思っていたことがあります。

この質問は、昨日今日の問題じゃないはずだという認識が、当然雪国で育ち、行政をつかさどるとすれば考えます。いや、今頃の話じゃないだろうと。そしたらば、平成30年12月に、議会で議員が同じ質問されていました。そのときに本田市長さんがきめ細かな配慮をするというふうにお答えだったと思います。当然そうだと思います。

その中で、じゃあ出された課題はどのようになったのかということを担当課と確認しました。つまり、その後の課題解決、これにかかる話というのはないんですね、実際には。これまでどおり、従来どおり計画があるということで、そのとおり計画をする。そして1億3,000万円の予算を確保しておき、そこに今回足りない、だから5,000万円という形でやるということでした。

私は、これに関してなぜ同じ質問するんだろうかということが違和感があったもんですから考えました。つまり、この問題が出た、どうして除雪がうまくいっていないんだというとき、しっかりと除雪は行政だけではまず無理です。地域やグループでやる、そういうことも考えなければいけません。予算も考えなければいけません。

したがって、夏に除雪に対する大作戦会議をやろうと思います。そして、この路線あの路線いろいろ出てきます。恐らく路線に関する除雪や道路の苦情というのは、道路に関する苦情が400件年間あります。除雪に関する苦情は200件です。600件もの苦情が来ています。

これを議会の中で、あの路線をどうするんだ、この路線をどうするんだと。それは600件の路線を議員各位からお話を頂いて、話し合いをしていくのかということになると、これは本当に大

変だと思えます。しっかり夏に各路線に関する考え方、これを意見交換をして、そして、地域やグループもしくは企業、この方々も交えて除雪に対する会議を開催して、遠野市の除雪計画、これを見直したいというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 御答弁は頂きましたが、やっぱり市長もまだ現状はしっかり、それぞれの現状を認識しておられないというふうに感じました。「今年わだちにはまり、ハンドル操作が不能となり、道路からはじき出され、川に落ちはしないかと硬くなって運転した」と市民の声。除雪作業の遅れは市民を危険にさらす。

市では積雪等路面状況把握のパトロールを下に、委託業者に連絡して作業に当たると認識します。それでは、夜間や早朝の除雪状況は、降雪状況はどのような手法をもって把握し、どのような手順で除雪作業に結びつけているのか。その内容についてお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先ほど私、就任が11月と申し上げたようですが、10月の間違いで、11月は全国市長会に出席した月ですので、訂正をさせていただきます。

インターネット、天気予報、最近の天気予報ってというのは確実に伝わってきます。また業者さん、事業者さんにも依頼しております。その情報を取りつつ10センチまで行かなくても、10センチになるだろうという予測の下で出勤をするというふうにしております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 時間がなくなってきましたので、ちょっと違和感が私もありましたが、インターネットとの情報は山岳地帯とかいろいろ違うと思えます。先般、市民から「路面が氷つきスリップして怖い」と電話があった。現地は約300メートルの間にきついカーブが連続し、山と立ち木によりほとんど日の光が当たらない

場所。路面が厚く凍りついている。その前後は日当たりがよく、雪は溶け、舗装面が見えるので車のスピードはある。突然カーブ中に凍っている路面が見え、ブレーキのためスピンする車が相当ある。

この道路は通勤や買い物、早朝、釜石線、岩根橋駅まで通学の子もさんを送迎する自家用車、碎石運搬のダンプトラックなど交通量が多い。これが冬場、危険な道路に変貌する。現地には通年砂が置かれている。

私はその日、全量散布するとともに担当課に状態を連絡した。後日、路面上の凍結した雪は剥ぎ取られ、安全は確保されましたが、宮守総合支所では路面状況の把握のパトロールを強化し、こうした区間は定期的に砂や融雪剤の散布が必要と思う。

また、日陰で圧雪が毎年続くこの道路、市道才の神線は抜本的な解決が必要と考えます。この道路、以前は県道、よって過疎地域を対象とした県代行整備制度の活用、この採択に動き、岩手県代行での道路改良工事、これも選択の一つと私は考えます。市長はこの現状を踏まえ、いかにお考えか御所見を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 連絡を受けて現場に行き作業する。感心させられました。本当にそういう、言うだけじゃなくて動くということが、やっぱり必要だと思います。私も何度となく雪に関する連絡を頂いています。私の家にもかかってきます。電話番号は多分皆さんお分かりになるんでしょう。

散歩をするんですが、散歩はいろんなところをするんですけど、いろんなところで、もう冬の散歩は除雪の苦情です。それを聞きながら毎朝歩いています。この路線に関しては元県道があります。路線の工事費に関しては、県にしっかりと要求をしていくということは、まず一つ大事なことであります。

同時に、遠野市には道路に関する計画もござります。これが5カ年計画でされています。今

のところここは載っていないですね、その計画に。まずここを載せるということも必要ですが、その道路の計画5カ年でできているのが0.1%です。遠野市全体の道路の中の0.1%です。

3億円、これは予算も計画も問題があると私は考えています。これが今年、今回だけ0.1%ではなくて、ずっと0.1%とかそういう数字の計画です。抜本的に道路に関する計画、後ほど申し上げますが、水路も同様だと思います。見直さなければいけません。これについても見直しのスタートをしたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

また後でお答えします。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 前向きな御答弁でございました。ぜひ多田市長の意に沿った計画をつくっていただければというふうに思うところであります。

次に、課題に思ったこと。

新町や下郷の町なかを通る市道新町線や達曽部地区の町なかの道路、路面が凍結してわだちができ、運転に四苦八苦。スクールバスの走行にも支障が生じている。この道路は歩道がなく、学童や生徒、高齢者はつるつる状態にあっても車道の往来をしなければならぬ。早めの除雪または融雪剤の散布、適期に排雪が必要と感じた。

こんなことも。除雪で路肩に雪が高く寄せられ、幅が狭くなっているところに、吹きだまり。これはインターネットには出てきません。すれ違いができないと市へ除雪を依頼したが、予算が逼迫し、出来かねるとの返答に困り、電話がありました。私は現状を確認したところ、吹きだまりで道路が狭くなっていました。市へはその旨連絡したときも、残念ながら同じ回答でありました。

以前、一般質問で降雪の量、これも平成30年に話したんですが、以前一般質問で降雪の量や吹きだまり、凍結など地域によって、特に山間地は事情が異なる。適切な除雪作業を行う

には、委託業者に任せるばかりではなく、町単位の積雪を計測し、連絡する方を委託してはと。そうすることによって、降雪状況など現地の実態が把握され、夜間や早朝の市民の足の確保など、市民に優しい除雪体制の構築ができるとの提言でした。

今は小さな拠点、地区センターが積雪の状況把握と連絡、この役割を担うことができると考えますが、そのときの提言は検討され、活かされておられるのか。これは市長は10月からでございますけれども、当時の担当課があるわけでございますから、活かされておられるかお伺ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 申し上げます。連絡員に関すること。

まず、これは活かされていないと思います。しかし、これをできるかどうかというのは、また相談をしなければなりません。また、その今、議員がおっしゃった路線に関しては私にも当然電話が入っております。その中でスクールバス、これが大変だということで、すぐに砂をまいてもらいました。子どもらが歩く坂になったところ、これも砂をまいてくださいということで、しております。

まず予算の付け方。これ変えましょう。これはまた提案していきます。

それから除雪。市の除雪はグレーダーですか、ガーッとやっていきます。狭いとやりにくい。道路の前に盛り上がります。だからやらないでくれっていう路線もあります。この路線は以前にそういう路線であったと。ただ状況が変わってくる。

それと、高齢化して歩くのが大変になってくる。この中でしっかりと話をもう一度確認して、議会の中で個別の路線の話をするのは差し控えさせていただいて、総論としてお聞きいただければと思いますが、しっかり路線ごとの判断をしなければいけないと私は思いますので、そういう会を開催することにしておりますから、ど

うぞよろしく願いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） これまで市民サービスが低下する、財政が悪化すると正しても諫めても箱物整備を進めてきた。増えた施設、指定管理料や補修など維持管理費等の物件費、その支出は施設が存在する限り続き膨らむ。結果、市民を守るに必要な予算は毎年圧縮の状況。除雪費も同様と認識しています。

多田市政には、今までも答弁でお聞きしました。多田市政には、この冬の除雪対応や市民からの要望、予算などを検証し、それに基づき市民が安心して暮らせる新しい遠野市の除雪体制の確立と、それに要する予算の手当を期待するものであります。

3年前、これも一般質問で紹介しました。本県滝沢市の除雪対応、今年の冬から市道は10センチ未満でも、降雪が連続し通行に支障が出る場合は除雪する。市内業者は2者減少し、除雪対応は厳しいのが現状。しかし、冬の市への要望の4割が早期の除雪を求める内容から、市職員による路面状況把握のパトロールを強化し、適宜除雪するとの地元紙の記事でありました。

本市でもこうした市民に優しい先例、これを生かした、提案した、提言したわけですが、これを生かした除雪計画になっておられるのか再度お伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 滝沢市の例をお話されていますけれども、10センチっていう部分に関しては同じですね。滝沢市ができる除雪できない除雪、皆さんにもこういうふうに協力をしてくださいという呼びかけはありますね。担当課のほうでは、その10センチに関する判断基準、それと10センチになるであろうという予測による出動、この点については参考にさせていただいているようです。

ただ呼びかけが足りない部分、市ができる除雪はこういう形です、ですから皆さんもこうい

う形で協力をして下さい、そして、その協力をしやすい体系というのはどういうふうにしませうという具体的な対策を、滝沢市は提案しているようです。私もこれはそのとおりだなと思います。

先ほども申し上げましたけれども、しっかりその辺のところの話をしましょう。私も今回、しっかりと冬の状況を見せていただいて、またこれからもあると思います。春は春、1年たたないと四季折々の課題が肌で感じることはできないと思いますが、冬のことはしっかりと肌で感じました。耳でも感じました。とにかく電話しやすいらしいです、私は。様々なところからお話を頂いております。真摯に向き合って、しっかり解決していきたいと思いますのでよろしく願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 大変希望に満ちあふれる御答弁を頂戴いたしました。感激します。

本市も滝沢市同様、除雪に関わる土木建設業者が減少している。それは工事の発注が減少したからと承知します。市道舗装面はクラックだらけ。橋の地覆の剥離、さびついた欄干、橋面舗装の劣化。これまで市には道路等の補修要望が、先ほど400件余り、除雪に関しても200件もあると聞きました。

地方交付税、これは地方公共団体の財源不均衡を調整し、どの地域に住む国民も一定の行政サービスを提供できるよう財源を保証するもの。道路や河川の整備及び施設管理に要する財源としては、市道の延長と面積、河川の延長とにより、地方交付税額が算定され、国から交付される。

ゆえに、この財源はほかに振り向けないで、特定財源として道路整備や維持費、維持等の予算に満額充てる。そして、その工事はできる限り市内業者の指名競争入札とする。そうすることで、災害復旧工事の対応や除雪業者が確保できると思うのですが、市長のお考えをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） インフラ整備、遠野市の課題ですね。今、本当に水路、道路、除雪、遠野市の課題、山積した課題が明らかに分かるようになってきております。これに対して、しっかり交付金の獲得ということは進めます。その上で除雪、道路整備、ライフラインの整備、これは上下水道を含めて、いやが応にも迫られているものでございます。

令和6年からは本当に逆転していく年になります。皆さんの御協力を頂かなければ成り立たないものになっていきます。その中で、しっかりと予算の充て方を考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 市の除雪は交通量の多い路線、バス路線、通学路を優先し、幅員4メートル未満の狭い道路は除雪できない状況と広報遠野12月号にあります。3年前にも指摘させていただきました。通勤・通学等市民の足の確保、これは当然市民自らも必要ですが、市民の足の確保、これは行政の責務であり使命と。松崎町白岩17区の遠野長寿の郷付近、17個の生活道路、幅員4メートルで延長は約300メートルの砂利道、大部分は公衆道路になっております。これを市道に認定し、地方交付税の対象路線にすべきと提言したが、前向きな答弁は得られていない。予算等審査特別委員会で提言をしたのですが、前向きな答弁は得られませんでした。

これまで沿岸地方から移住された方が除雪機を自費で購入し対応している。機械に砂利が詰まる。下水道のマンホールの蓋に接触などして故障し、3台目を購入したと聞きました。今年は坐骨神経痛で除雪ができない、困ったと思っていたそうです。

そのとき、その方のお話では、市と思われるが今年初めて除雪があったと。それも2回もと。大変感激しておられました。この道路、早急に

市道に認定し、せめて簡易舗装を施工し、除雪対象路線にすべきと私は考えます。それが市民サービスであると思います。そうすることこそが市長の掲げる「市民の命と暮らしを守る」言葉の誠と思うのですが、市長の御所見をお伺ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） こういう道路、数か所ございます。考えなければいけないことは、以前とこれから。例えばこれからどうしてこういうふうな道路になったかということも考えなければいけません。

宅地分譲します。事業者さんはあまりお金をかけたくないので、道路をそういうふうな状態で建てて、なるべく安く売ろうとします。外山の水もそうです。排水対策、雨水対策、これも含めた道路の基準、道路の構造、U字溝の構造、そういうふうな開発をする場合、開発というのは開発行為に該当するかしらないかということではないです。一般的にそういう開発をする場合、しっかり遠野市の中に基準がなければ、こういう道路がどんどん増えます。

また再生エネルギー、この影響を受けないで、しっかりと環境を守りましょうということも、遠野市の計画の中に書いてあります。これらの基準をまずつくらなければ続いていきます。私は今年しっかりそれに取り組み始める。そういうふう考えています。

もう一つ。そういうふうになってしまったところ、これまでの遠野市の、中だけじゃなくてほかのところも順番があったとします。計画、市道とか、遠野市が直すには市道が優先してきます。先ほども申し上げました400件あります。

そして計画、市道だけでも計画は0.1%しかありません。受益者も一緒になって考えていかなければならない部分があります。ですから率直に申し上げますと、U字溝と道路の舗装に関しては、すぐ着手できる状態ではないと思ひます、現在の遠野市の財政を見たら。

しかしながら、だから知らないよというよう

なことにはならないと私は考えています。やれる方法というものは考えていくべきだし、今、近々に除雪の話がございました。除雪については、市道についても細かい要件は必要です。何軒以上住んでいる、何メートルこういう市道ですとか、そういうことは、細かいことは決めていかなければいけません、市道に対しても除雪の助成をすべきではないかと私は思っています。除雪を頼んだ場合幾らの補助をするとか、そういうことも取り込んでいきたいと考えています。

舗装に関しては、ただいま申し上げたように、現在すぐできる状態ではないということをお願い申し上げます。やりたいです。できるだけ早く必要などころに行って、やりましようと言いたいところなんです。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 予算もあるのですから、それは重々承知しています。そういう考え方に立つべきではないのかという提言でございます。

これはですね、議会の中で提言しても先入観と私は取りました、担当課の。建て売り住宅する場合においては、建築基準法で4メートル以上の道路を確保すると。これが決まり、基準だと思えます。これを確保して建物が建築されてくると。

ただし、住んでいる方はその後にその建物を買うとか、そして移り住んでいるわけでございますから、今の市民の方々にはできるだけそういうことを考えて市民サービスするべきと。私の考えでございます。

高齢者住宅や市営住宅内の除雪等まだまだ質問したいことがあります、制限時間が迫りましたので、3月定例市議会、私の一般質問これで終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午前10時56分 休憩

午前11時06分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 萩野幸弘でございます。ただいまから通告に従い、大項目2点、市民の生活環境改善策についてと新型コロナウイルス対策の実情についてと題しまして、一問一答方式で一般質問をさせていただきます。

毎回一般質問のテーマを決めるに当たり、私の脳裏に浮かぶ題材、課題というのは、人口減少であり少子高齢化であります。

人口は、単にまちのにぎわいだけでなく、自主財源確保、国の交付税算定基礎となるものですが、昨今の本市の状況を見ましても町なかの人通りはまばらで商店街も閑散としており、空き家や更地も増え、郊外においても耕作放棄地の増加や集落の減少などで、永遠の日本のふるさとを標榜する遠野市としての豊かな農村風景が廃れてしまうという不安、一刻も早い改善措置を願う気持ちが交錯しているのが本音であります。

これらの課題解決に向け、行政執行権を担う市長の手腕に大いに期待をしておりますし、積極的な政策をどんどんと御提案を頂き、私たち議会もそれにしっかりと向き合い、市民目線でその政策の是非を活発に議論し合うことが大事ではないかと思っております。

これらを前提に、市民にとって喫緊の課題を何点か取り上げまして、これから質問してまいります。

最初に取り上げるテーマは、除雪対策であります。

このテーマ、先ほど1番目の佐々木敦緒議員も御質問されたテーマでございますので、内容が重複しないよう努めますけれども、もし重複した場合は御容赦頂きまして、簡潔な御答弁をお願いいたします。

明日から3月ということで春到来間近ではございますが、今年の冬、まれに見る雪の量と寒さにより、一度降った雪もなかなか解けずに、

特に町なかの道路は排雪できずに路肩に山盛りに積まれたと、道路を塞いで交通に支障を来し、路地などではわだちがうねるように続き、車だけではなく歩行者にとっても危険極まりない路面状況、これは先ほどの同僚議員も申し述べたとおりです。

まずは、この本市の基本的な除雪体制について、先ほどは業者数伺いましたが、その業者に係る担当区域の割り振り、あるいは除雪経費の予算、先ほど1億数千万ということでしたが、重複した部分を除いて基本的な事項、もう一度確認をいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 最初に、どんどん新しいアイデアを出してやっていけという力強い言葉を頂きました。本当にそういうふうにしていくために、これからしっかり精査をしながら事業を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

まず、除雪、これは先ほど申し上げましたが17業者、委託をしております。路線の計画もしっかりできております。

現在、予算は1億3,000万円でしたが、5,000万円補正で1億8,000万円というふうな予定にしております。

積雪量に関しては、今年は特に多いわけではない。過去にも多いときがあったし、今年よりも多い状況の中で7,000万の予算、9,000万の予算ということもございました。本当につらい思いをして市民が生活していたんだなということもよく分かります。これらについて、課題を向き合って解決していきたいと思ひます。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 今市長からも今年の雪の量、特に例年と比べて多いわけではない、私もそれを感じておりますが、どうも除雪の頻度というのがちょっと例年に比べて足りないんじゃないかなという感覚を持っております。そういう私の感覚はありますが、実際は例年と比較

してどのような進捗状況だったのか、なぜそういうふうな、市民にそういう感情を抱かせるような状況になっているのか、順調で予想どおりいったのではなく、何か弊害があったのか、費用面なのか、何だろうという思いがあります。その点、率直にお聞かせいただければと思ひます。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私も暮らしておりますので、私の家の前をいえば、私もちょっと作業が減ってるということですかね。あとは、さほど感じていないんですけども。やっぱり、印象としては高齢化していくということや寒いというものが重なると凍るのかなというところはあります。

ただ、例年と違うというようなところは見受けられていません。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） あんまり個人的な体験だけで言うのはどうかと思ひますけども、あるシーズンはグレーダーが3回も入ってきたりとか、今年は1回も入ってきませんでした。そういうこともあって、今年こそ寒さがあって、今市長がおっしゃったとおり、わだちになりやすい、凍りやすいということですから、人力だけではどうしようもなかったんです。そういう意味でちょっとお聞きしました。

自然現象を相手にする除雪対策ですから、いかに天気予報の精度が上がっているといっても予測不能な事態もあろうかと思ひます。その意味では、除雪に関わる皆様の御苦労いかばかりかと、私からもお察し申し上げ、心より感謝を申し上げる次第です。それを踏まえた上で、除雪の課題を何点か上げるとすれば、住宅地、特に昔ながらの町並みが残っている地域、狭い路地が結構多いと先ほども話りましたが、除雪車が入っていけないということです。

きめ細かな市民サービスの観点から、そういう狭い路地の除雪対策、主要幹線道路と同じ

目線で捉えるべきと考えます。これ、ただ除雪できていないのが実際なわけでありまして、そういった細い路地の除雪対策の課題、そういったものの御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） やっぱり高齢化していく社会の中では重要なことだと思います。除雪計画ございます、現在。これ、見直しましょう。その辺も含めてやってく必要があります。

ただ、一つ重要なことは、行政だけでは解決できないことなので、小さな拠点、地域、あとはグループ、様々な角度から取り組まなければいけない、それと同時に若干の費用がかかる点も予測しておかなければいけない、そういうふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 先ほどもそういった形で、市民協働で、それは私も以前も提案いたしました。やはり、行政だけで対応するにはもう限界にあるんじゃないかと。市民協働で除雪を考えるべきじゃないかと、これは以前から訴えております。なかなかやられませんが。そういう意味では、新市長になって改めてそういう御発言がありましたので、期待しているところでございます。

先ほどの同僚議員の質問と同じような、恐らく答弁が続くだろうと思いますので、予定していた部分を一部割愛して次に進んでいきたいと思っております。

市営住宅周辺の除雪体制について、ちょっと細かくなりますが、御確認をいたします。

市営住宅、その名のとおり管理者は遠野市ですが、特に総二階建ての市営住宅に関しては日陰もできやすいということで、周辺の道路、雪が解けにくく堆積して、私の家の前もそういった市営住宅ですけれども、もう住民の方が一生懸命除雪作業しておりますが、どうしても固まってきて、できあぐねていると。しかも、排雪するところもない、もうどんだんたま

っていくという状況です。

こういったところを見て率直に感じたことを質問いたしますが、市営住宅周辺の道路や駐車場の雪かきについて、管理責任者である市と入居者の間で具体的な契約状況というのはあるのか、まず御確認します。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 管理責任上、そういう契約等はございません。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 考え方だとは思いますが、やはり大家さんが雪かきをするべきなのか、入居者がやるべきなのかというところはあると思うんですが、ただ市民サービスの観点、あるいは市営住宅を利用している方々の状況、年齢的な状況とか家庭状況を考えると、やはり市として住人にとにかく任せ切りというのはいかがなものかなと、やはり行政としての対応、配慮が必要なんじゃないかなと私は思いますが、その点、率直に市長のお考えを伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先ほども申し上げましたが、非常に違和感があります。萩野議員は市営住宅の真向かいに、近所にいらっしゃいます。市営住宅というのは、それこそ数十年前からあると思います。雪もずっと降ってます。その中でこういう議題とかこういう話合いというのはあったのかなというのが、私今すごく不思議でしようがないです。今になって喫緊の問題として出てくるのではなくて、この雪国の遠野では、これ課題だったはずなんです。しっかり課題に取り組んでこなかったという表れなのか、それとも喫緊、非常に大変な状態になったのか。私は、一般的に考えると市営住宅も一般の御家庭も道路があつて家があります。同じようお互いに努力してやるべきだと考えています。

ただ、その辺のところについて、高齢化する

社会の中でどのような除雪計画をしていくかということとは、さきに申し上げましたが、しっかりとお話をしていきたいと。

また、今ここでお借りして、「しどうしどう」という言葉を先ほど前質問でありましたので、その「しどう」というのは指導するということではなくて、私道の意味なので、ちょっと勘違いされてることがあればと思いますので、訂正させていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 私も市長の今言ってる違和感、そう言われればそうだろうなと思います。何せ、私だけじゃなくて同僚議員、過去から何度もこの件はテーマとして上げているんですが、全然解消されてないと、反映もされていないというのが本当に御指摘のとおりそのとおりだと思うから、何回も言わなきゃいけないということになるんです。

私は前にも言いました。小さな拠点やるならなおさらですけども、各地域に除雪情報を出して、計画を出して、そしたら地域住民に出てきてもらって、例えばグレーダーでがっと削りますね、先ほど市長もおっしゃってましたが。そうすると、脇にたまります。苦情が出ます。ですから、その後ろから地域住民の除雪隊みたいな、スノーバスターズのような方がついてって、砕いたばっかりだったらまだ運べますから、それが凍って固まっちゃうと無理だと。ですから、市民協働でやるべきじゃないかと前から言ってるんです。それがなかなかできてないということです。

除雪に関する質問、恐らく先ほどの同僚議員の答弁と今後の部分は同じだと思いますから、除雪の質問はこの程度にしますけれども、おっしゃるとおりですから、ぜひ今しゃべることとは、やはりこれから暖くなる時期ですが、これも市長がおっしゃいました。次の冬が来る前にきちっと準備をすると、大事なことだと思います。ぜひ、期待をしておるところでございます。

ということで、除雪のテーマはこの程度にしまして、次に水路の件について質問をいたします。

例えばですが、私にも生活雑排水による悪臭、環境汚染が著しい水路を改修してほしいという要望、これまでも何回も頂いております。それを市につないで、生活に身近な水路事業、そういった部分に、現場も見ていただいた上でこれは市のほうでも早急にやらなきゃいけないという判断があったのでしょうか、やっていただくことにして、計画に搭載していただいているものもありますが、実際は何年も放置されていて、放置というのはちょっと語弊がありますね、ちょっと手をつけられない状況で、恐らく財政上の問題とかいろいろあるんでしょう。でも、かなり前からですので、そろそろやっていただかないかなというのが正直な気持ちです。

本市のこれまでの水路整備計画事業について、そういったものでたまっているのも案件が結構あるんじゃないかなと思うんですが、率直に市長としてこれらの課題及び進捗状況をどのように捉えているか、伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 非常に課題大きいと思います。治水というのは、生活する上で非常に、環境そうですけども、重要です。これを計画的にやっていかなければいけないんですが、同時に計画的に行政もその受益者、例えば事業者と一緒にある基準をつかって基盤整備を進められるようにしてこなければいけないものでもありました。これを基盤整備のために新たに宅地を造成する、その他のことに関しては、技術基準をつくらなければ同じことの繰り返しです。これに着手します。

それと、5カ年計画の中でも、住環境のいい、その水洗の環境とかそういうのも市民の方々一緒に進めましょうというのはありました。水路整備に関しては、全体の年度計画の半分です。50%ぐらいしか着手できていないという状態です。これも見直していかなければいけません。

つまり、予算をつけなければいけないということです。基盤整備に関する予算が足りないのです、この点、一回次はしっかりとつけていかなければいけないと思うので、除雪に関する大作戦もそうですけど、水路、道路、整備計画を見直したいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 分かりました。

次に、当たり前のような話なんですけど、この水路を整備するに当たって、今後計画を見直していくということですけども、その際のポイントとして、水路というのは水が流れるということは上流から下流に向かって流れていきます。その過程でいろんな線といいますか、合流していったって、川と同様水路もだんだん水かさが増してくる、水量が増してくると。昨今の異常気象の影響で、ゲリラ豪雨など短時間で一気に降るという場合も頻発していますし、今後もそういうことがなきにしてもあらずというのが予想されます。そうしますと、下流に行くほど水路がオーバーフロー気味になると。実際に市長のお住まい、あるいは私の住まいの早瀬地区というのは、白岩地区というのは、落合の近くになりますから、上郷、上流のほうからあるいは附馬牛方面から来た水がたまる場所です。実際にあふれて敷地内あるいは住宅に床下浸水したという事例も実際ございます。

そういう意味では、やっぱり整備計画、今やるとおっしゃいましたけれども、そういう意味では下流から順番にやっぱり整備を確立していかないと、いつになっても災害、苦情が出るんじゃないかなと思うんですけど、その辺の基本的なお考え、どうでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 住宅地と山間地帯とかというのは水路の考え方は少し違うと思うんですけども、今の御質問は住宅地に関するところですね。

私も、どっちかという水路に関するところ

はうるさく今までも言ってきたし考えていきたいほうなので、遠野市内散歩しながらだったり自転車で見て歩きます。そうすると、下流が小っちゃくて上流が大きいとか、そういうことがすごく目立つんです。あと深さとか勾配とか、水の流れる方向でなぜここに水路だと、こういうこともあります。

恐らく、聞いたところによると、元田んぼのところが多くて、そこに水を引っ張っていったって、また川に返すと、その過程の中でそれを利用しながらつくってきた経緯があるようです。ですから、いろんな不具合というのもあったんだと思います。そこに接続していくために。

住宅地に関しては、確かにおっしゃるとおり、下流のほうからやっつかないと、上を大きくしてしまつたら下あふれますから、それはもう常識的なところで、そもそもしっかり計画見直さないと、その辺がだめなんじゃないかなと。上流に大きい水路の計画があつて、もしくは勾配がその土地よりも高いとかという部分があつたりするとなおさらのことです。

それと、今の状況からいくと、遠野って結構平たんなところ多いですよ、盆地ですけども。そうすると、そこには調整池が必要だったりします。一時水を貯留するようなことも必要な部分があるなというふうに見てきています。

結局は、計画としてその辺をしっかりと精査して見直していかなければいけないということです。今回、見直していく時期に当たりますので、しっかりとつくっていききたいというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 分かりました。どうも普段も水が流れているかと思えば全然流れてなかったり、恐らく上流のほうで何か調整というのか、どこかに引っ張っていらっしゃる方がいるのかなと思います。やっぱりそういうところもきっちり見直して、今、調整池というのはなるほどなと思いましたが、やはりそういうのが必要だと思います。この後の質問にも同

じような質問がありますので、その場でちょっと見解を述べていただきますが次に移ります。

先ほどから住宅密集地の水路の話をしてますけれども、単に水があふれるだけじゃなくて、逆にどっかで水路が切れてるんです。消えてるんです。昔の青線だと思うんですけども、そういう何か全然未整備、水がほとんど流れてない、流れているのは生活雑排水だけというところもあります。

衛生面で非常に危ないなというか、危険だなと思うのが、市長のお膝元の公園にもありました。私、地元の住民の方に見せていただきましたけれども、子どもたちが遊んでいる脇に本当に生活雑排水がたまってるんです。そんなところで水遊びをされたら、非常に怖いなと思いました。

そういう意味では、水路の整備とそれから下水道、やっぱり町なかであれば下水道は結構通っていると思いますから、それにつなげていただくというのも大事なんじゃないかなと思うんです。

そういう意味では、水路の整備計画あるいは下水道の整備の計画というのを一体的に捉える必要があると思いますが、その点における市長の御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） しっかりその辺見てく必要はありますよね。生活雑排水が水のないとこに流れると、すごく臭いということがあります。もう一つは、下水管を配置して使えるようにするとか、衛生的に汚水を流しましょうとかということも進めてきています、これまでに。そういう部分にしっかり接続していただくという点については、行政だけじゃなくて市民の方にも協力をいただかなければいけないと、この点はしっかりお願いしていただければなりません。また、地域でもお願いしていただければというふうに思います。

その行き止まりの水路について、これ考え方二通りあると思うんですけども、前々から行

き止まりだった部分と、なぜか行き止まりになってしまった部分があると思います。前々から行き止まりだった部分というのは、農地だったりそういう意味で行き止まりの水路もあるんですけども、最近になって行き止まりの水路ができるというのは、それこそ宅地開発とかそういうときにもしっかりと下流まで接続しないでやめているという例が見受けられます。これは、その基準がないからです。そこはしっかり業者さんにやっていただかなければいけないところなんです。それを担当課も基準があれば、指導要綱があれば、こういうことですからこういうふうにお願いしますというふうにできます。これが、根拠がないとできないわけです。これからについては、その部分をつくっていかねばなりません。また提案をしていきますので、よろしくお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） では、飛ばしてまいります。

除雪に関する質問に戻るようで恐縮なんですけれども、新潟など豪雪地域では、流雪溝という排雪用の水路が整備されていると。特にも機械が入らない、先ほどのような狭い道、なかなか入りづらいところで有効だということが書いてました。調べると。本市の場合でも、そういった昔ながらの狭い路地とかそういったところに有効じゃないかなと感じた次第です。

そういう意味で、これも実は前の市長のときから質問して前向きな答弁は頂いているんですけどもなかなかやられてない部分なんで、この機会にまた再度質問させていただきます。

例えば、河川から出水した水、具体的なイメージでいえば例えば遠野第二ダム、そちらのほうから水路を引っ張って町なかを通して流雪溝として整備すると。そうすれば、地元の地域の人たちがやっぱり自分の店舗の前とか家の前を除雪したときに、結局捨てるところがないんでたまってくということですから、その流雪溝に流してしまえば、市民協働で除雪ができる

んじゃないかなという発想です。

これというのは、夏場にも道路への散水利用とか基本的に潤いのある町なかの景観という景観づくりにも一助になると思うんですけども、そういったお考えに対しての市長の御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） いや、非常に答えが難しいです。

融雪溝という話でちょっと考えたんです。遠野寒いですよ。新潟上越だと暖かいんですけど、その水路に流したものが凍って行って、それがどんどん凍っていったら、これまた大変だなというのが一つ頭にあったり、狭いところだったら余計に、これそのときどうしようかなと一瞬考えました。

もう一つは、引っ張ってくる水路のお金、これの費用対効果を考えたときに、除雪の要するに係る経費を増やすのと、どっちがいいのかなとかということも考えなければいけないです。

でも、一つの案として参考にとりより、非常に答えにくいことで、意外と前向きには答えられないかなという感じだったんですけども、いい御提案だったと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） そのとおりだと思います。ですから、あくまで降った雪を全部流雪溝に流してくれということではないということです。

さらには、次の質問なんですけど、いわゆる小水力発電、これに利用できるんじゃないかなという意味があります。東日本大震災の際、遠野の町なか2日間停電しましたけれども、真っ暗闇になりました。非常に私も不気味だなと思いました。そういったときに、もし小水力発電で街路灯、防犯灯というものが常備されていれば、停電があっても電源は確保できるということにもなりますから、そういった意味で利用できるんじゃないかなという意図もあります。こうい

った小水力発電に対しては、方針演述の中でも触れられておりましたが、こういった活用の仕方、市長、いかがお考えでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） いいですね。例えば、溝を造ってそこに流れなくてもちよっとずつ流してかなくても、一次避難の雪ということを考えて、置き場にはなるなど。凍らないとき考えたら、それ水力発電にも使えるなというふうに思います。

いずれにしても、各地でできるマイクロ発電というのは進めたいし御提案していきたいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 持ち時間が少ないようですので、飛ばします。

次が、空き家対策と景観保全です。

郊外だけでなく、駅前周辺地域も空き家や空き地が増えてちよっと住宅地に入るとその数がさらに増えているという状況です。この状況、市長は率直にどのように御認識されてますか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、空き家は多いです。そして、空き家が増えています。そのうちの7割ぐらい、600棟ぐらいあったらいいんですけども、平成28年には。現在は、現在取りまとめ中ですが900軒ぐらいになっていると、7割ぐらいは貸せるんじゃないかという状況です。現在の状況ということですからそういうお答えでよろしいでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 増えているということです。前回の議会である地域の空き家の行政代執行計画の説明がありました。本市として、この行政代執行の判断基準、改めてどのようなものなのか、伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 行政代執行に移るということは、まず法律に基づいてやらなければいけないという権利というものがありますので、それに至るまでの間に所有者の方に危険家屋であったり廃屋は撤去してくださいというお願いをしていきます。それができないと、進まないという状況で中に入って調査をして、危険状態を調べたりしていきます。その結果、倒壊の危険性があって周辺に影響を与えるような場合は特定空家等とすることができて、その先で行政指導、勧告、固定資産税の特例除外、命令といった順に通知をしていきます。そして、自己解決に向けた交渉ができない状態の中で命令ということになります。これが行政処分として措置期限までにできなかった場合には、行政が代わって代執行するというようなものでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） そのような状況の空き家というか、空き家ならまだしも、倒壊してしまってもう、ちょっと言葉、表現はあれですが、瓦礫状態になっているというのが町なかにもございますね。塀で囲ってますけども、何か臭いものに蓋をするじゃないけども、これ根本的な解決策なのかなと、そのまんま、私はあれは一時的な緊急措置だと思ってました。でも、ずっとそのまんまです。これでいいのかなと、果たして、思います。

新市長になって、このような空き家についても積極的な対応を講じるべきと思いますが、御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 本当にそのとおりだと思います。道路に例えば工作物を造って倒壊を防ぐというような方法なんだろうかというふうに思います。

これが、おっしゃってる空き家は相続が絡んでなかなか進められないと、ただ行政代執行までもにらんで進めていると、何年も何年もこの

状態です。

例えば倒壊してきたときに、私、例えば機械で道路の反対側に押すというのだってあるだろうと、道路に工作物をつけなくたっていいだろう、そして塀を立てればとかいろいろあります。でも、隣に家が建っていると、その反動で隣の家に危険を及ぼしたりとかということもある、その上での判断だったと思います。非常に苦しい状態で仕事をされてきたと思います。

今、所有者の方と、これ頑張って何回も何回も交渉するということですよ。それをやっていますので、進めたいと。

参考までに、同じ所有者さんで違うところにも同様の家屋がありました。これについては、解体をしていただいたということを御報告しておきます。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 今は具体例として個別の案件について御答弁を頂きました。詳しい御答弁を頂きました。

逆にというか、一方ではやっぱり景観にも支障を来すようなこのような空き家、ほかにもたくさんあると思っているんですが、全体的に総合的な見地で、これらも先ほどから言ってる除雪対策とか水路対策と同様に、やっぱり見直しというんですか、さらなる具体的な対策が必要と考えますが、広い見地で御認識を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） この件に関しても、電話頂きます。このあいだは、おばあちゃんでした。みっともないから壊させろと。どういところと聞くと、あそこの人の建物だと。こういうところあります。これは、所有権があるのでその所有者にしっかりお願いをしていかなければいけない、具体的にお願いをしなければいけない。そして協力をしていただくと。

これに関して、解体についての様々なサポートもしていかなければいけませんし、進めたいなと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 8 番萩野幸弘君。

〔8 番萩野幸弘君登壇〕

○8 番（萩野幸弘君） 次に、本市を観光地として見た場合に、日本のふるさととしての風景というのは、農村だけなのかなということで、私は町屋の風景もまた遠野市のいわゆる城下町の景観も守っていききたいなと感じております。

高齢化が進む現代、戦後の高度成長期と言われた昭和の時代を懐かしむ声、昭和の町並み、昭和に造られた車やバイクなどの価格はもう下手すると1,000万単位の高騰しているものもあります。本市としても、生活インフラを整備する際に単に新しくするという目線とは別に、昔ながらの宿場町・城下町といった雰囲気、特に中心市街地なんかは、醸し出すような景観づくりを意識したまちづくり政策というのも必要ではないかなと思います。

その対策として、例えば私の提案としては、現在の建物を保全するような条例なども制定しながら老朽化した建物を単に壊すんじゃなくて、昔ながらの店舗風にできるだけ低コストで改装して、移住者も含めて幅広く空き家を有効活用していただくようにすると。それで、まちのにぎわい、新しい店舗も増やしていくと。

どういった人たちがお客様になるのかなとなったときに、これも前にも提案してるんですけども、もちろん地元の方々、店舗利用するのは。市営住宅を私は町なかに造ったほうがいいんじゃないかと前から何回も言ってるんですけども、更新する際、長屋風に整備してその長屋風の市営住宅の入居者の方々をメインのお客様とすると。特に、高齢者に優しい建物としてのバリアフリーな長屋の間取りにして、でも中に入れば光ケーブルを活用した見守りシステムも完備すると、あるいは入居した方々が徒歩で通えるようなところにお店があるということですから、お互いウィン・ウィンの関係になると。

入居者にはオプションでかかりつけ医と見守りシステムをつなげるメニューやインフラも整備、さらには離れた家族、東京とかああいった方々とはテレビ、LINEの画像とかそういう

のでも簡単につなげていつでも会話できるようにというような設備も常備する。

さらには、オンシーズンには観光客向けのインフォメーションにもなるようなビジターセンターも造って、オフシーズンは住民のよりどころになるようにすると、そういったイメージですか。

こういうことをやることで、一気に無理だと思いますけども、大体長期的ないわゆるまちづくり計画に基づいて段階的にやっていって、町屋の景観も維持するというようなことで人口の減少歯止め、あるいはにぎわい創出、あらゆる面に効果が期待できるんじゃないかなという、突拍子もないといえばそのとおりにかもしれませんが、例えばですけども、そういった守りだけじゃなくて攻めの姿勢の政策というのを打ち出していくというはいかがかなと思うんですが、御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今のお話を聞いて、ある意味非常に残念。私も、実は、新庁舎、駅前の開発、中心市街地の開発、それと駅舎、その話が出たときに、役所も含めてそのような考え方で庁舎を考えていくべきじゃないかというふうに思っていました。その中で高齢者の方に提供できるものがあると。その町並みをつくりながら私はやりたいなというふうに見ていた。その頃は、私は何の提案もできませんでしたので、今聞いて、私も同感だし、残念だったなと。これだけの大きいプロジェクトですから、やればいろんなことができたろうなという思いはあります。

ただ、同時に現状どうするんだということ考えた場合、景観を保持しながらやっていくということは非常に重要です。ですから、このコロナの今大変な影響を受けておりますけれども、その中でもチャンスがないわけじゃないんです。私、シャッター街になってるところ、どのぐらいのお店を使えるかちょっと調べてもらいました。全体で7軒ぐらい、これを何とか、今コロ

ナだからできないじゃなくて、今準備できるという方法もあると思うので提案をしたいなというふうには思っておりますし。

例えば、今までであるところ、中心市街地だけじゃなくて各地域にもあります。いい宿場町たくさんありますので、これは皆さんの地域の人たちのイメージにもよります。市長がこういう地域にしましょうということじゃないです。自分たちがどういうふうな地域をつくっていきたいか、その中でそういうふうな考え方もできるんじゃないかというふうに今受け取って考えていました。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） まちの将来を考えたときに、やっぱりわくわくするような、将来に向かって希望の持てるような計画を市民にどんどん打ち出していくというのが大事なところ。現状を何か防衛するということも大事ですけども、それだけでは何か心がだんだんつらくなっていくと、やっぱり将来これに向かって、今はこうだけでも次はこうだよ、こうなっていくよという夢のある政策というのが私は欲しいなと個人的には思っております。

中心市街地を例に挙げてましたが、市長おっしゃるとおり11地区全てそういったやっぱりまちづくりについて考えていけば、私もいいのかなと思います。

世界の有名な観光地では、極端に言えば、建物の材料とか形、色、場所、そして建築可能な棟数まで制限している、そういった地域もあるようですし、近隣の自治体でいえば平泉町、有名なコンビニチェーンの看板の色さえ変えていって。そういったものもあります。ただし、やっぱり所有者の方の御意向というのも大事ですから、そこも踏まえながら、ぜひ、市長、前向きな御答弁でしたので期待をしているところです。

次に、新型コロナウイルス対策の実情について移ります。

新型コロナウイルス蔓延、2年以上が経過し

ました。現在もその状況が続いております。ワクチンの3回目接種については、随時情報開示されておりますが、改めてそういう意味では取り上げるのもどうかとも思いつつも、私の高校時代のある先生の主張をちょっと思い出しますが、こういう話をすると。その先生は、その当時、朝のニュースを見るけれども、同じ内容が一日中流れてるからうるさい、1回でいいというような話をしました。私もこの還暦間近になってまでこの先生の言葉は忘れられないんです。というのは、引っかかっていると。でも、ニュースというのはやっぱり見逃した人もいるわけですから一生懸命流すというのが大事なんじゃないかなということで、そういう意味で、これからの質問になります。

2回目までの接種について、その実績に対する市長の御見解と申しますか、御報告と申しますか、お願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 2回目までの接種率等について申し上げます。

2回目を終えた方は、12歳以上の方で2万3,669人、対象者が、そのうち2万1,954人、全体の92%の方が接種を終えているというふうになっております。

年代別に見ますと、12歳から19歳が86%、20代から40代の方が87%、50代から80代の方が91%から95%、90代以上の方が89%という状況であります。

県全体では、90%ということですので。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 次に、3回目ワクチン接種計画です。

65歳以上の市民向けに関しては、現在具体的な準備が進んでいるものと理解しておりますが、64歳以下の年代について、決定次第随時広報等々でお流ししてと思っておりますが、最新の状況、見通しについて伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ワクチンの3回目の追加接種についてですが、1回目、2回目の初回接種同様に、遠野市医師会、県立遠野病院、花巻市薬剤師会遠野支部等、全面的な協力を頂いて接種をしております。今まさに現在進めているところでございますから、この状況につきましては医療連携特命部長兼総務企画部新型コロナワクチン接種対策室長から答弁をさせますので、よろしく申し上げます。

○議長（浅沼幸雄君） 新型コロナワクチン接種対策室長。

〔総務企画部新型コロナワクチン接種対策室長佐々木一富君登壇〕

○総務企画部新型コロナワクチン接種対策室長（佐々木一富君） 命によりまして答弁申し上げます。

3回目の接種の対象者は、2回目接種から一定の期間が経過している18歳以上の方を対象としてございます。先行して昨年の12月から医療従事者や福祉施設の入所者及び従事者、スタッフなどの接種を行い、2月21日から市内11か所の医療機関で個別接種と集団接種を併用しながら65歳以上の方の接種を開始してございます。今週末までの接種率の見込みとしましては、30%程度と見込んでございます。

また、対象人数は医療従事者等が約1,200人、65歳以上の方が9,800人、18歳から64歳以下の方が9,700人と見込んでございます。

接種予約につきましては、65歳以上の方には日時と接種会場を指定した形で通知を送付しているところでございます。64歳以下の方については、3月中旬以降に接種券を順次発送し、原則インターネットでの予約による受付を実施する予定となっております。4月中旬以降の接種を見込んでございます。

インターネット予約が難しい環境にある方については、前回と同様に各地区センター、市役所、宮守総合支所などに予約の支援窓口を設置して接種予約がスムーズにできるように対応してまいりたいと思っております。

なお、64歳以下の方でも県の集団接種会場など早期に2回目接種を終えてる方については、接種券を順次発送しているほか、市内に住所を持って県外で勤務されている方、学生さんなどにも早期に接種が可能となる方についても対応している状況でございます。

優先接種といたしましては、保育園、幼稚園、認定こども園の保育士さんなど子育て関係施設の従事者をはじめ、小中学校及び高校の教職員の接種、さらには64歳以下の基礎疾患を持った方の接種、これを前倒しで実施する予定となっております。

以上でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 持ち時間も少なくなりましたので、一部飛ばしてまいりますが。

先ほどから100%じゃないというのはもちろん、体の都合で打ちたくても打てない方、あるいはもうワクチン自体に対する認識等々で、これは強制ではありませんからそのとおりなんですけれども。そういう意味では、接種されていない方に関しては命に関わるリスクも高いわけですし、そういった意味ではそういった方々の詳細な把握あるいは相談窓口、カウンセリングなど、そういった方々に寄り添う政策も、接種されてる方とはまた分けて必要じゃないかなと思うんですが、御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 接種されていない方、都合でできなかった方、もしくは自らやらなかった方、いらっしゃると思います。いずれにしても、接種をしても100%が安全ということではない、これはもう前提の上なんですけれども、しっかりその上で基本的な対策、感染予防はしていただくと。

もう一つ、接種した方、されない方、これは別にしないで、しっかり何か不安がある点に関してはお気軽に御相談くださいと、またこの場を借りて申し上げておきたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 8 番萩野幸弘君。

〔8 番萩野幸弘君登壇〕

○8 番（萩野幸弘君） 分かりました。

次に、特にこの後出てくるのは、先ほどは12歳以上でしたけれども、5歳から11歳までの子どもたちのワクチン接種まで対象が引き下げられると思いますが、これに関して、例えば北上市のホームページを見ますと、5歳から11歳までのワクチン接種については分けて広報してるんです。接種ありきではなくて、保護者の方の判断を促して、同伴でやるのであればやってく下さいというふうに、接種ありきじゃないということを強調してるようです。

そういったやっぱり副反応のリスク等々がありますし、厚生労働省でも実は推奨してないんです、これ。エビデンスがまだはっきりしてないということ。

そういう意味では誤解も生じかねませんので、そういった部分の正しい周知というのが接種体制も含めて必要だと思うんですが、御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 同感です。しっかりとそのリスクを分かる範囲でお知らせして、保護者の方に判断をしていただく。これは、絶対的な強制ではありませんので、その辺の判断を頂けるように情報を流していきたいと思えます。4月中旬頃に接種始める予定ですので、それまでに流していきますので、御判断を頂ければと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 8 番萩野幸弘君。

〔8 番萩野幸弘君登壇〕

○8 番（萩野幸弘君） ある自治体では、やっぱり5歳から11歳の部分のワクチン接種券の一斉配送もしませんと、希望者だけに配りますという自治体もあるようですから、ぜひそういった部分、そのとおり、市長の御答弁とおりの慎重にお願いできればと私も思います。

ちょっと質問を飛ばします。経済対策の部分であります。

私は、例えばですけども、製造業を営んでおります。一昨年のコロナウイルス蔓延時には国の補助メニューがありまして、何とか息をついたと。その後に、国の補助メニューが2年目には途中で終わっちゃいまして、そしたら市の補助メニューが追っかけ、補助メニューがありました。非常に助かりました、正直。

そういうアフターコロナまで見据えた手厚い本市の補助メニュー、先月久慈市で開催された県主催のものづくりセミナーというのがありまして、私も事例発表させていただいたんですが、その場でその補助メニューがあつて助かったということも発表しましたらば、業界関係者あるいは自治体関係者の方から非常に称賛を受けました。

現在は、コロナ3年目はちょっとこれまた受注も今のところはありますが、今後の蔓延次第でどうなるかは不明だと。

このようなことを踏まえると、本市での経済対策、新年度の予算を見てもその辺がちょっと人手不足に関する補助メニューは見受けられませんが、こういったコロナ2年目までのメニューがちょっと見受けられなかったのも、その辺についてはどうだったのかなと思って確認をいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） この辺は重要なところだと思います。そして、今またロシアの問題もございまして。ウイズコロナ、アフターコロナだけではなくて、これからの経済というところを見据えて考えていかなければいけないと私は思っています。その上でしっかり判断をしなければいけない、状況も見なければいけない。これから、適宜必要なことを判断してやっていく予定でございます。

あと、これまでの例に関してですね。これについては今までやってきたこと、これについては総務企画部長兼新型コロナウイルス対策室長から答弁させていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） 新型コロナウイルス対

策室長。

〔総務企画部新型コロナウイルス対策室
長鈴木英呂君登壇〕

○総務企画部新型コロナウイルス対策室長（鈴木英呂君） 命により答弁申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に係る経済対策については、令和2年度には44事業、約30億5,000万円、令和3年度には23事業、約10億8,000万円、合計約41億3,000万円、延べ67事業の予算を措置し、その対策に当たってまいりました。

経済対策は、個人向けの支援事業と事業者向けの支援事業に大別されます。特に、事業者向けの支援事業については、幅広い分野にわたりきめ細かく対応してまいりました。令和2年度、3年度に実施した経済対策の実績につきまして、その一部を紹介いたします。

農林畜産業に関する対策については、外食控えなどを要因とする消費の減少により価格が下落した子牛価格や米価、または根ワサビなどの生產品目を支援する事業のほか、6次産業化の支援やさらには新型コロナウイルス感染症などの影響による収入の減少に対応するため収入保険加入促進事業などを実施してまいりました。

主な成果としては、令和2年度に実施した遠野牛地域一貫体制整備事業費補助金及び主要畜産品目生産基盤拡大推進事業費補助金において、黒毛和牛100頭、和牛繁殖雌牛89頭、農用繁殖牝馬9頭が増頭されております。

馬産地遠野活性化支援事業費補助金では、乗用馬市場のオンライン化や牧柵、馬具類の更新による環境整備を進め、整備後に行った令和2年度、3年度の市場売却率は6年ぶりに70%を超える結果となりました。

遠野産米次期作支援事業費補助金については、米価下落の影響を受けた販売農家636経営体の水稻種子購入費用を支援することにより、経営安定化及び生産意欲の向上に寄与したものと認識しております。

収入保険加入促進事業費補助金については、保険料負担額の軽減により令和2年度は86経営体、令和3年度は103経営体の加入につながり、

農業者の経営安定化に寄与したものと認識しております。

次に、商工業に関する対策については、市内中小企業において事業継続と雇用確保がしっかりとされるよう事業資金補助などを実施したほか、アフターコロナを見据えた生産基盤拡大、デジタル社会への対応を後押しする事業などを展開してまいりました。また、消費回復型の事業としては、プレミアム商品券事業や消費喚起イベントの実施支援などが上げられます。

主な成果としては、中小企業等の資金繰りを支援する中小企業等事業資金緊急対策事業費補助金においては、令和2年度の交付実績は197件で事業効果は約37億円、施設投資等を支援する商工業再生・持続化補助金は13件で事業効果は約1億4,000万円、供給力向上促進事業費補助金は4件で事業効果は約3,000万円と見込んでおります。

消費喚起を支援する消費喚起支援事業費補助金は114事業者が参加し消費効果は約1億2,000万円、高い元気回復事業費補助金は5事業に支援し約7,000万円の消費効果があったと見込んでおり、地域経済の下支えにつながったものと認識しております。

次に、観光・宿泊業に関する対策については、宿泊と市内回遊による消費回復を促進するクーポン券事業のほか、ワーケーションなど新たな観光需要の取り込みに向けた事業などを展開してきました。飲食店への支援については、給付金事業のほか、飲食店への来店を促すキャンペーン等の実施支援を行ってまいりました。

主な成果として、新型コロナウイルス感染症対策観光振興補助金により、遠野市観光推進協議会が実施したクーポン券事業においては、宿泊クーポン券の令和2年度の利用実績は延べ6,340人、市内回遊クーポン券の利用実績は延べ9,229人であり、影響を受けた宿泊・観光業者をはじめ飲食店や小売店などを支援することができたものと認識しております。

今年度も引き続きクーポン券事業を実施しており、1月末時点の利用実績は、宿泊クーポン

券が延べ1,808人、市内回遊クーポン券が延べ6,216人となっております。

現在実施している令和3年度の経済対策事業の効果について検証を進めるとともに、引き続き市内事業者のニーズ把握に努め、ウイズコロナ、そして未来を見据えたアフターコロナの取組を迅速に行ってまいります。

以上、答弁といたします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 私の持ち時間もなくなってまいりましたので、この後、やっぱり新年度に向けてどうなんだろうと、具体的に確認したかったわけですが、先ほど市長の御答弁で新年度もしっかりとやっていくというお話でしたので、それをもって、あとは具体的な部分は予算委員会、特別委員会等で確認してまいりたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 午後1時まで休憩いたします。

午後0時12分 休憩

午後1時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

引き続き、一般質問を行います。

次に進みます。1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 小松正真でございます。一般質問を始める前に、本日、最初に市長からお話がありましたが、ロシアがウクライナに軍事侵攻をいたしました。今もウクライナ各地で戦闘が続いており、多くの犠牲者が生まれていると、そういう状況であります。

日本の林外相が、ウクライナ政府に対して、ロシアの侵攻により亡くなったウクライナ市民にお悔やみを申し上げるとともに、被害を受けた方々にお見舞いを申し上げる、力による一方的な現状変更は、国際秩序の根幹を揺るがすものであり、ロシアを強く非難すると発言し

たという報道がなされています。

侵略と表現した日本国政府、この判断を私は支持するとともに、日本国政府には言葉だけではなく、国際社会と協力して一刻も早くこの侵略行為を解決に導くための行動をすることを強く望むところであります。

それでは、一般質問を行います。

私の一般質問は、大項目2点について、市長に対し一問一答でお伺いをしてまいります。

まず、大項目の1点目、遠野みらい創りカレッジについて質問してまいります。

遠野市内の中学校再編に伴って廃校になった土淵中学校を利用して、遠野みらい創りカレッジ事業が開始され、早くも数年が経過いたしました。これまでも多くの利用者があるということで、議会でも説明を頂いているところではありますが、本日は、これまでの遠野みらい創りカレッジについて、そして、今後の方針についてお伺いをしてまいります。

まず、最初の質問であります。本日、議会を御覧になっている市民の皆様にも遠野みらい創りカレッジを理解してもらうため、遠野みらい創りカレッジの設置目的について確認をいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 重ね重ねウクライナのことには心配です。本当に皆さんと一緒に祈りたいと思います。

遠野みらい創りカレッジ、私はすごく重い響きに感じて、責任のある看板だなというふうに思っていたのが率直な意見です。それだけの答え方をしなければいけないことだと思っております。

みらい創りカレッジは、平成25年3月末に閉校した旧土淵中学校の空き校舎を活動拠点とし、平成26年4月、市と株式会社富士ゼロックスの遠野みらい創りカレッジ協定により設立したものであります。

そして、設立の目的は、両者が、まちづくり、芸術、文化、産業などの分野において相互に連

携するとともに、交流人口の促進等を図るために設立される遠野みらい創りカレッジの構築及び運営について協力することにより、地域及び産業の発展と人材の育成に寄与することとしたものであります。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 様々な目的を持って施設が設置されたということが、議会を御覧になっている皆様にも御理解いただけたのかなというふうに思います。

2016年には、現在の委託先である一般社団法人遠野みらい創りカレッジが誕生したとの過去の資料を拝見をいたしました。現在の運営体制についてお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 運営体制ですから、人的な体制というふうに考えてお答えさせていただきます。

平成26年4月は、株式会社富士ゼロックスから2人常勤職員、1人非常勤職員のほか、市内採用の1人の契約社員と市から派遣職員1人という5人体制での運営でありました。

平成28年4月に法人設立登記を行い、一般社団法人遠野みらい創りカレッジとして、市からの派遣職員1名を含めた6人体制での運営となりました。

平成29年2月には、総務省のふるさとテレワーク推進事業補助金を活用し、高速通信環境を整え、テレワークセンターの運営を開始しました。

令和元年6月には、内閣府の地域創生拠点整備交付金を活用し、食育を支援するカフェ機能を整え、一般社団法人遠野みらい創りカレッジが運営主体となり、独立採算による運営体制で食育カフェアダージオの運営を開始しました。

そして、令和元年度、株式会社富士ゼロックスは協定の期間満了に伴い、遠野みらい創りカレッジの運営から撤退した。この撤退に伴い、令和2年4月からは、一般社団法人非常勤社員

1人と常勤の業務受託者1名、市からの派遣職員1名の3人体制での運営でありました。

令和3年4月からは、一般社団法人、非常勤社員1名、常勤の業務受託者1名の2名の体制での運営となりました。

以上です。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 残念ながら当初から運営に関わっていた、今は社名変わっていますけど、富士ゼロックスさんが既に撤退された。現在は、一般社団法人遠野みらい創りカレッジが、令和3年度、2名の体制で運営をしているという御答弁でございました。

次の質問でございますけれども、これまで土淵中学校が閉校してから今日までどのぐらいの予算をここに投入をしてきたのか、お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ちょっと読ませていただきます。建物については、平成26年度、平成28年度、平成30年度に改修整備しており、その総額は1億6,870万円です。このうち、国庫補助が8,750万円であります。

遠野みらい創りカレッジ運營業務委託費は、平成26年度から令和3年度の8カ年の総額5,480万円であります。

以上です。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） すいません、ちょっと1点確認をしたいんですけど、今の建物の予算の中に、テレワークセンターをつくったときの予算と食育カフェアダージオをつくったときの予算というのは含まれているのでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） それでは、内訳を申し上げます。

平成26年度、旧中学校改修整備につきまして

は、執行額8,230万5,720円です。次に、テレワークセンター整備、1,050万665円、次にカフェレストラン改修整備、総額7,591万2,800円となります。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） これまで総額として2億円を超える予算がここに投入をされてきたことが分かりました。

私が市議会議員になってから、「検証」というキーワードで、毎回議会でいろいろ質問をお伺いしているところではありますが、しっかりと検証をしていかないと、今後の遠野みらい創りカレッジがどのような方向性に進んでいかは分からないというふうに思います。

この一般質問を通告したときに、ヒアリングとあって、市当局の担当者から一般質問の内容に対しての聞き取り調査がありました。その際に、遠野みらい創りカレッジ事業は教育のための事業なので長い目で見ていただいて、費用対効果という質問は趣旨に合わないと思いますよという御指摘を頂戴をいたしました。

その際にもお話ししたんですけれども、費用対効果も、先ほどお話しした検証の一部であります。教育だから、福祉だから、第三セクターだから、そうやって際限なく予算を投入していくというわけではないというふうに思います。これまでの現実をしっかりと逃げずに直視し分析を行う、これが今の遠野に一番求められていることであると私は思います。

それを踏まえて次の質問ですが、これまでの遠野みらい創りカレッジで行われている事業、これらの実績についてどのように捉えているのか、お伺いをいたします。

先ほどお伺いした予算に対しての効果、費用対効果についてもどのようにお考えになっているのかお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 市としてのこれまで各年度評価されていることについて、私のほうか

ら御報告をさせていただきますが、平成26年4月から令和3年12月まで交流人口は約4万3,000人、市外からの交流人口は1万3,000人です。

活動につきましては、次世代教育、市内高校生が首都圏の大学生と交流を持つ、留学生と交流を持つ、そして地域の課題等を話し合ったりしながらプレゼンテーションを行った。この活動に参加した高校生は多様な感想を持っているようで、よい機会になったとなっております。

また、高校生は、自らの関心持つことに関して、客観的に把握することで進学目的が明らかになったり、AO入試などの挑戦にも役に立ったというふうに感想を申しております。

さらには大学進学後も、何らかの形で携わり、プログラム参加、子どもたちとの可能性追及をしたいとも考えているようです。

令和元年6月には、カフェレストランの運営が、一般社団法人遠野みらい創りカレッジによる独立採算制ということで始まりました。コロナウイルスの影響もあり、休業を余儀なくされておりますが、これまでの来店客は約6,000名、収入は450万円であります。

カフェレストランは、食を通じて地域を育む食育のカフェということになっております。食材を生産農家より購入するなど地産地消に努めておりました。緑峰高校の生徒が栽培した琴畑カブなどは評判がよかったようです。

以上のことが実績とされております。参加者の宿泊・交通・飲食、地産地消にこだわる食育カフェの食材調達による生産者の所得向上等、経済効果もあつたようになっております。

また、人材育成には時間がかかるグローバル人材をこれからも育成していきたいというふうに評価はつづられております。

以上です。

私の感想でしたですね。なかなか参加する機会がなかったということもあります。ただ、どんどん時代は変化するものです。社会の要望も変化していくものです。ですから、私は次のステップに向かっていきたいなというふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 様々な実績があった、これは私も理解するところであります。市長も、次のステップというお話をしておりますので、次の質問でそこら辺をちょっとお伺いしたいなというふうに思うんですけども、過去にテレワーク事業、先ほど聞いた話だと1,500万円ぐらいですか、お金を使ったと。テレワーク事業で導入した大型の複合機、年間維持費30万円、2020年度の使用実績は印刷枚数ゼロ枚、食育カフェ、先ほどの御答弁で7,500万円で設置、売上げは年間150万円程度、到底利益が出ているという状況ではありません。また、そのカフェには、その人件費の一部、足りないところを市の委託料を入れて補っているという過去の御答弁がありました。

コロナウイルスの影響が幾らあるとはいえ、今の遠野みらい創りカレッジ、これは本当にうまくいっていると言えるのでしょうか。私も市長と同感で、次のステップに行かなくてはいけない時期なのかなというふうに思うところです。

また、ここに登記簿、先日花巻の法務局に行き、一般社団法人遠野みらい創りカレッジの登記簿謄本を取得してまいりました。役員の構成を見ると、委託元である、発注元である遠野市の職員が、委託先である遠野みらい創りカレッジ、これの役員になっています。私は、この形というのはいびつであり、即刻是正しなければならないところだなというふうに思うところです。

先ほどあったとおり、これまで2億円の予算を投入してまいりました。議員になった当初から、遠野みらい創りカレッジ事業について質問をしてまいりましたが、現状を考えて、多額の予算を投入してこの現状というのは、市当局にとって大きな反省と責任を考えていただきたいと思っておりますし、前任期で大きな予算を承認しているとはいえ、遠野市議会としても大いなる反省と責任を痛感しなければいけない、そのように思います。

とはいえ、旧土淵中学校、なくなるわけではありませんので、どうかして次のステップに向かわなくてははいけません。今後、この旧土淵中学校をどのように利活用していくのか、方針があればお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、市の担当職員は、市長の目的、政策を実行するための最大の協力者であります。ですから、職員の考え云々のほかにも従わなければいけない部分も出てきますということは、御承知おきいただきたい。その上で、皆が抱える違和感についてしっかり協議をして進めてきました。予算編成も変わっていると思います。まずその辺の役員等に関しては、修正が必要かと思っ指示をしております。

そのほか使い方に関しましては、若干地域住民の方から少し遠くなっているかなという気がしますので、もう一度地域住民の方とよく話をし、そのほかにベンチャー企業であるとか、市内の活動団体であるとか、事業者も含めて多岐にわたって活用できるようにしていきたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 今後は、もっと市民の皆様にも活用してもらいたいという御答弁だとお伺いをしました。

市長の所信表明の中に、市民活動サポートセンターを開設したいというのがありました。まだまだ構想段階の話だというふうには思いますが、市民活動サポートセンターという名称からすると、市民活動をサポートする、すいません、そのまま大変申し訳ないんですけど、市民活動をサポートするための施設か団体をつくりたいというふうに受け取ったところがあります。例えば、今後、市民活動サポートセンターをつくるとして、旧土淵中学校を活用してつくるのはいかがでしょうか。

提案の理由としては、過去に整備した設備が、

しっかりとした整備が残っています。なので、比較的簡単に様々な団体が利用できる環境にあるというのが一つ。あと、そもそも遠野市の経済の中心はJR遠野駅中心のものだというふうに私は理解をしているところなんですけども、過去につくったテレワークセンターのような経済を動かすためにやるような事業というのが、バスで行かなきゃなんないとか、もしくは自転車で行かなきゃなんないような、土淵中学校というのはあんまりそぐわないのかなというふうに私は思っています。

なので、土淵中学校に行けるっていえば、やはり市民の車を使って行ける方々が利用できるような環境にしたほうがいいんじゃないかなというふうな思いを持って、市長が考える市民活動サポートセンター、ぜひ土淵中学校につくることを検討するか検討しないか、お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 市民活動サポートセンターの回答でよろしいですか。市民活動…

○議長（浅沼幸雄君） 反問でよろしいですか。

○市長（多田一彦君） はい。

○議長（浅沼幸雄君） それでは、確認してください。

○市長（多田一彦君） 市民活動サポートセンターの設置に関するお答えをすればいいですか。

○議長（浅沼幸雄君） 市長、1回着席願います。

1 番小松正真君。

〔1 番小松正真君登壇〕

○1 番（小松正真君） 市民活動サポートセンターを設置するとして、その設置場所を土淵中学校につくってはいかがかという質問でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 市民活動サポートセンターというのは、小さな拠点であっても、地域の人、団体がこういう事業をしていきたいなど

か、様々な自主的な活動についてサポートしていくイメージであります。このイメージというのはだんだん固まってきて、状況を見て小さな拠点でも必要だろうというふうに考えています。その結果、土淵中学校っていうのもその候補の一つではありますが、まだそれを固定しては考えておりません。

○議長（浅沼幸雄君） 1 番小松正真君。

〔1 番小松正真君登壇〕

○1 番（小松正真君） 分かりました。今後、ぜひ今のお話を検討していただいて、議題にのるようであればぜひしっかりとその旨の方向性で取り組んでいただければなというふうに思うところです。

土淵町には、今現在水光園、伝承園、その他にも民間でいろいろソフトクリームやったりとか、そういうふうな動きがいろいろ見えていると思います。小さな拠点の地域づくりも土淵が先事例として既に始まっているような状態ですので、今後、土淵中学校を利活用するに当たって、過度の土淵町民への負担というものが増えないか、それだけをちょっと心配をしているところです。ぜひ、土淵町民に向けて市長のメッセージを、今この場で発していただければなと思いますが。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 土淵町民の方に過度の負担というのは予測しておりません。まず、土淵中学校に対する思いというのは、私が何を言おうが、地元の方、そこを卒業していった方に勝るわけがない。その思いをしっかりとつないでいくということが大事だし、テレワークセンターという話も何回かお話になってはいますが、なぜテレワークかという、どこにいても仕事できるからです。だから、どこかに行ってテレワークをするという時代ではないんです。その場で仕事をするという時代がテレワーク今の時代です。

ですから、遠野市はネット環境がこれからますます充実していきます。各家庭にもWi-Fi

i が設置されています。それこそ家で仕事ができる環境が整っていくわけです。どこでも自由に仕事できる環境を目指していきたいと思えます。

もう一つ、私、非常に深い感銘を受けることがあります。これ、ちょっと時間頂いて読みたいと思えます。

土淵中学校教育目標、心身ともに健康で実践力があり、明るく平和な文化国家の形成者としての誇りと責任を自覚し、21世紀の国際社会に開かれた日本人を育成する。総合目標、誠実、勤勉、自主の人間育成、自ら学び、心豊かなたくましい生徒の育成。カップ塾とは、平成13年度から始まった土淵中学校の総合的な学習の名称、学校のテーマ、生き方学習に沿って、学年別テーマに基づいて個人テーマを決定、課題解決学習を行っていくものです。本校の近くの寺の境内にカップ淵というところがあります。そこには、昔カップが住み、よくいたずらをしていたそうですが、寺が火事になったとき、消火の作業を手伝ったという昔話があり、そのカップの昔話に由来した名称です。ネーミングについては、あまり深い意味はないかも、という文書がありました。

これ、まさに今、子どもたち、地域に求める教育理念ではないかというふうに思えます。ここを目指していけばいいんです。そのために、私が思うには、もう一回生徒手帳をあそこに入る人たちに発行してもいいなとか、いろいろあります。もっともっとイメージを広げて、土淵中学校の活用をしていきたいというふうに思っています。土淵町民の方にどんどん意見を言っていただいて、明るくよいよりどころになるようにしたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 大学を卒業して、22歳で遠野に帰ってきました。そのとき、一番最初に仕事したのが土淵中学校でした。私は遠野中学校の卒業生なんですけど、土淵中学校が、もう一回自分が中学校に入り直した、私も何か土

淵中学校を卒業しているような雰囲気のあるときもあるので、今の生徒手帳の話も今後しっかり検討していただいて、土淵中学校の利用、ぜひ次のステップに進んでいただければなというふうに思うところです。

次に、大項目2点目、「市内で経済循環するまち」についてお伺いをしてまいります。

多田市長が誕生して約5カ月経過をいたしました。前回の一般質問の際にも、「あと3億円あれば」という市長の本音も見え隠れしましたが、市長は選挙の際に、市民の皆様に向けてお話しされたことと、現在の市の財政と現状を見比べながら頭を悩ませていることとお見受けいたします。

しかしながら、市民の皆様にお話しされたことは実現していただかなくてはなりません。市長は、5つの項目を掲げて当選してまいりましたが、今回の一般質問では、その中の一つ、「市内の経済循環するまち」について、その一端をお伺いいたします。

最初の質問ですが、市長が考える市内で経済循環するためにはどのようにしていくつもりなのか、お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今の御質問には何種類か、幾つかの方向から物を考えなければいけないというふうに思っています。不足する部分があると思いますので、不足した場合は後で聞いてください。

まず、できるだけ単純に考えると、市内で発生したお金は外に出さないで、市内の事業者に仕事していただくようにしていただくこととあります。これは、まずニーズに応えるための準備も必要です。今の時代ですから、在庫を持たなくたって、いろんな形でそれに対応するということはできると思います。

また、ここは市が市内でお金を使うからということではなくて、相互の利益のために相互に努力をするということが、営業努力をするということも大前提になっております。その相互の

努力というのは非常に重要だということを、まず一つ捉えてください。その上で、発注できるものを市内に発注していくと。受注するほうは、しっかり営業もし、努力をして受注できるようにすると、責任を持って受注していただいて、それを実行していただく。

もう一つは、例えば全てを行政が事業として起こしてくんじゃありませんよということです。事業チャンスを数多く行政もサポートしてつくっていくということが必要になります。その結果経済が発展し回っていくと、こういうシステムを考えなければいけません。そのために、市は持っている財産を使って、有効に事業を起こせるようにしていかなければなりません。

今のところの質問には、この答えでよろしいでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 市長がお考えのとおり、市内で経済を循環させるというのは、一つ二つのことじゃないと思うんです。いっぱいいろいろな要素がある中で、それを一つひとつやっぱりクリアしていくのが、やっぱり市内で経済が循環するまちの実現に向かっていくことなのかなというふうに、私も思っているところです。

今日は、そういった多項目ある中で、市内で経済循環するまちになるためには、遠野市内で1、2番に大きい企業って言ったらいいですか、遠野市役所も、これ大きい企業のうちに入るといふふうに思います。

遠野市役所という大企業が、遠野市から発注される仕事は、入札等をやって発注されるというふうに理解をしているところですが、遠野市内の企業が落札する率をお伺いをいたします。これは、件数の率そして金額の率というふうにあると思いますので、それぞれお伺いをしたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） いろんな業種、いろんな入札、落札あります。業務委託とか物品購入

の数字でよろしいですか。

○議長（浅沼幸雄君） 反問でよろしいですね。1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） これ、ヒアリングのときにも申し上げたところなんですけど、全体の数字があったとして、例えば建設土木というのは恐らく市内にほとんど発注されている金額だと思いますので、それ以外のところでもし数字が押さえられているのであればお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） よろしいですか。多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ありがとうございます。ちなみに、それでは、物品購入について申し上げます。約44%、3,249万4,000円、業務委託、約48%、5億534万6,000円、全体で46%、市内業者の契約となっております。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 今日はじめてこの数字を今この場で聞いているので、私の率直な感想は、半分行かなかったんだというのが率直な感想です。

遠野市内の企業がすることも市外に発注されているというケースがあるということは、市民の皆様から多く伺っております。また、仕事によって利益が大きな仕事は市外に発注され、市内の業者は入札にも呼ばれもしないということも聞いています。私も、サラリーマン時代にそのようなことを多く経験しました。何で市内の業者ができるのに市外に発注されなくてはいけないんだ、入札業者登録って一体何なんだろう、そう思って憤慨した思いは1度や2度ではありません。

そんな私の個人的な感情はちょっと別にして、市長がお話しされてきた市内で経済循環するまちを実現するためにも、これまでの入札や業者選定の在り方を検証しなくてはいけないと思われませんが、いかがでしょうか。

ただ、遠野テレビを御覧になっている皆様、そして、この議場にいる皆様に勘違いをしていただきたくないでお話をしておきますけれども、入札や発注にはしっかりとしたルールがあることは理解しています。今回の質問は、ルールをねじ曲げて無理やり遠野市内に発注したほうが経済が回るのではないか、そのようなことを言うつもりはありません。決まっているルールの中で、遠野市内の企業や個人事業主の皆様が正しい競争に参加するための土壌をつくりたいという思いでの質問でございます。その辺を御理解の上、市長にも御答弁いただきたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） もとより市内で経済循環ということは、そういうことです。ただ、全ての営みや法律の定めるところ、これをしっかり守った上でのことです。入札、選定もルールがあります。このルールをしっかりと守って進めなければいけないということは大前提の上で、皆さんが市内の事業者の方が参加できるように、例えばある一定基準が必要であれば、そこに到達できるように努力をお互いにして持っていくということは重要なことです。

また、今回、ケーブルテレビの光ファイバーの設置工事など大きな事業もありますが、これらはやはり市外業者を使わなければいけないので、いろんな意味でのパーセンテージというのは、そここのところで少しダウンしていくということは、これやむを得ないことだというふうに思っています。

いずれにしても、事業者、行政、一緒に努力をして、市内で事業を循環できる体制をつくっていかねばならないと強く思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 全くそのように私も思うところです。先ほどの市長の御答弁の中にもありました相互の努力、これが今後遠野市内ですますます求められることではないかなというふ

うに思うところです。

市内で経済循環をするまちを実現するためにも、先ほどの入札、しっかりと検証を行っていただいて、いいところは伸ばす、よくないところは反省して訂正する、ルールの中で、訂正する相互作業をぜひ行っていただければなというふうに思います。

一般質問の最後に、先ほど入札の検証というお話をいたしました。前回の一般質問でもお伺いをいたしました。そこから時間も経過をいたしましたので、より内容が具現化されているかと想像してお伺いをいたしますが、これまでの遠野市内で行われてきた政策や事業、先ほどの入札や業者選定の在り方全てを検証していかなくてはなりません。徐々に検証作業も始まっているというふうに思いますが、これからそのような検証の方法、どのように進めていくつもりなのかお伺いをします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私も公約で申し上げましたが、検証は進めると、現在も検証は進めております。その結果として、様々な事業、予算のつけ方が変わっていると思います。また、組織改革もいたします。そのために、初年度の予算に組み込むことは難しい部分については補正を組んでいきます。新しい組織になって、しっかり計画を立てるべきこともあると判断しています。そういう予算の違いもございまして、その辺も一つ考えながら見ていただければと思います。

その上で、必要な部分しっかり予算をつけていくという作業に入ります。検証は常に必要です。検証と実行、企画、実行の繰り返しだと思います。

その上で検証に、自分たちだけでは無理な場合、議員の皆さんにお願いする場合もあるし、第三者委員会にお願いする場合もございまして。様々必要に応じた形で進めていきたいと思っております。詳しい検証の今ベースをつくっているところ、それと、分かるところを進めていること、

その先で必要な場合はまた御相談をさせていただいて検証をするというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） しっかりとした検証の体制をつくっていただいて、今後正しい現状の分析が行われることを切に望むところであります。

本日お伺いしてきた遠野みらい創りカレッジ、入札、そのほかにも第三セクターの改革など、しっかりとした検証の下進めていかななくてはいけないというふうに思います。新しい方針を立てるには、正しい現状の分析が必要不可欠です。これから1年間をかけて、先ほどお話しした内容が改革をされていくことと思いますが、ぜひ市長の所信でもある検証をお忘れにならないよう、焦ることなくじっくりと確実に一步一步前進することを期待して一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午後1時46分 休憩

午後1時56分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 通告に従い一般質問を行います。午前と同僚議員の質問にもありましたが、昨年の米価の下落と水田活用の直接支払い交付金の見直しと遠野市の農業の根幹を揺るがすような出来事が起きています。私たちは、議会を通しながら、見直しを求めていかなければなりません。多面的な役割を持っている農業、そして農村、それを守っていくこと、いかに大切であるか知っていただきたいと私は思っております。市長も率先して行動を起こしてくれるということは、市民も心強さを感じ取ってくれるものと思っています。

さて、質問に入りますが、市長は、10月の市長選挙において初当選し、12月には、11地区におけるみんなの井戸端会議を開催し、多くの市

民の声を耳にしていたはずであります。選挙前にも、多くの市民の声も届いていたものというふうに思っておりますが、改めてみんなの井戸端会議を開催した意義について質問いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 一言で言って本当に意味のある時間をいただいたと思います。皆さんの声を生で聞いて、どうすればいいかというそのプランまでしっかりと話し合っ、つくっておられました。私は、この計画を後押しする、これが仕事だなというふうに感じています。

各地、小さな拠点、スタートしたばかりです。行政区再編あります。いろんな不具合も出てくると思います。ただ感じたことは、各地域、皆さんが前向きにスタートしていると。それは皆さんの話し合いがかなり濃いものだったんじゃないかというふうに想像できます。そういう意味で、これから、一緒に取り組んでいきたいというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 十分な声をいただいたと、それを後押ししていくというようなことが答弁されました。

次に、その成果についてどのように考えておられるのかお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 井戸端会議のときには、218件の意見をいただきました。その実現に向けた検討を行い、もう既に20%、38件については対応いたしました。また60%、130件については、様々方法論等議論しております。先ほどもありましたが、道路等ライフラインに関しては、その計画の中に組み込んでいかなければいけないものもありますので、そういうふうに進めていきたいと思っております。

いずれにしても、いろんなところで聞いた意見は、本当に重要なことで、急を要するものばかりでした。その優先順位をつけていかなければ

ばいけないということは非常に苦しいことでもありますけれども、優先順位を検討しながら、着実に実行していきたいと思っております。

なお、そのときの案につきまして、意見につきましては、各地域等に既に配布しております。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 218件の意見要望をいただいたということで、3か所は300人を優に超えていたというふうに私も伺っております。そういったことがこれからの市長の動きの糧になるのかなと私は思いますけれども、次に、市民要望についてどう分析をし、先ほど幾らかありましたけれども、どう分析し、判断し、そして、令和4年度の当初予算案に反映されているのかどうかについてお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 最初に予算についてですけれども、すぐ反映させたものと反映していないものがあります。これは、その取組に関してプランを立てなければいけないというものもあります。組織再編を含めながら、その上で補正を組んでいくという考え方でございます。そのときには、地域のお話もう一度聞かなければいけない。

もう一つ、さらに考えたのは、テーマ別、例えば農業もありますね、この水田の問題、国の助成の問題、これもあります。畜産をどうやっていくか、ごみ処理の問題、誘致企業の問題、様々あります。今度はテーマ別にやっていきたいと思っております。その中では、より具体的に提案をしたいというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 今後、テーマ別にきちんと精査する、そしてまた補正予算のほうで対応していきたいというふうに私は伺いました。

続きまして、大きなテーマの2つ目でございますけれども、市政課題についてということで、これは、井戸端会議の中でもいろんな形で課題

として、あるいは要望として出されたものの一部から私が拾い上げて質問したいというふうに思います。

まず、小さな拠点についてですが、それぞれの地区センターは今まで地区の活動の拠点であり、これからもそれは変わらないと思っておりますが、私は、ますます地区センターの重要性はあるものと思っておりますが、市長の演述の中でも、地区センターの役割には、小さな交通網などを含めながらも、実現も目指していきたいということが言われておりますが、細かいところは見えませんが、今の体制において実現するのかを含めて、市長は地区センターについてどう思っておられるのか。

私は、50年来ずっと地区センターを中心に組織活動、団体活動をやってまいりましたけれども、小さな拠点になって、やはりその中心となる市職員がいないと、地元の方々といいますか、地連協に雇われた方々がやっておりますけれども、そういったものも含めて、地区センターのあり方、これは、我々地域の者にとって、重要な拠点として、やはりそこが盛り上がりなければその地域の活性化も盛り上がりもないというふうに私は捉えておりますけれども、市長はどのような考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 全く同感であります。小さな拠点は、名前は小さな拠点ですけれども、恐らく大きな拠点になっていくだろうし、最重要拠点になっていくと思います。今のところ、まだ手探りの部分もありますよね。だけど、いろんな制約が緩くなったと考えると、仕事、小さな産業をつくることもできるし、いろんなことができます。そのサポートをする体制をさらに強化していきたいと思っておりますので、小さな拠点はこれからどんどん発展するというふうに期待したいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 市長はそのようにおっ

しゃいましたけれども、次に、行政組織の見直しについて質問いたします。

地域づくり応援室がなくなるとお聞きいたしました。わずか2年で地域づくり応援室がなくなるということは、私が捉えるには、その役割が終わってしまったのか、また前のように市職員を配置し、見直しをしていくつもりなのか、その点についてお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私は、応援室は準備のための室というふうに捉えております。これからは、一緒に協働していくと。地域づくりは、地区センター、重要なものになっていくと。そして市としての地区センターの位置もさらに重要になっていくとして捉えれば、応援室ではなくて、全体が地区センターと伴走していくというふう捉えていただきたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） それは正しいことかもしれない。しかし、今の時期、皆さんもそうだろうと思いますけども、各行政区の総会などを開いて、次にも延べますけども行政区合併等も含めて、私は、やはり今が一番大事であって、それを軌道に、要するに地域の活動が軌道に乗るまできちんとフォローするといいますか、これでいえば応援となりますけども、そういったものが出来上ってからでもこれは取り外すことはできますし、やはり一番大事なところが欠如しているのかなというふうに思いますけどもどうでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） その反対にお考えいただきたいなと思っています。しっかり伴走していく、どんどん相談してお話をしてください。応援室ではなくて、全体で市民協働していくという考えであります。ですから、本当に逆の、縮小ではなくて、これから発展していくという意味でお考えいただければと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） そう言ってしまえば、これからのことですから、できませんとは言いませんけれども、やはりその求めている理想の地域づくりまで持っていくためには、私は今の現状では不可能だと私は思いますけども、その辺についてはどうでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これは私も頑張りたいと思います。ですから、今までつくっていく過程では、ここにいる副市長も頑張ってきました。この間戸端会議をして、着実に一步を進んでいるという印象も受けました。でも、これから、もしかするとこんなこともできる、あんなこともできるという部分に関しては、まだまだじゃないかなというふうに思います。その辺も含めて、発展していけるように、私も一緒に協働していきますので、よろしくお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 考え方は人それぞれいろいろありますけれども、市長のように気持ちが大きく、これから夢をもってやっていけば何でもできるんだよと、こういう考えであれば、それはそれでいいと思いますけれども、私は、50年間の地域の活動を通しながら、今の現状を見た場合には、かなり厳しいなというふうに私は思っているところでございます。

次の質問でございますけれども、私たちの住むざいのほうにも光を与える必要があるんじゃないかなと、先ほど申したとおりでございます。

次に、生活交通についてですが、高齢者と免許返納者についてであります。これは、私、一般質問でも2回も3回も行っていますけども、公共交通と言われるバス、タクシーの利用は当然ですけども、特にもやむを得ず免許返納、返納したくないと思いますけども、いろいろな面で条件引っかかって、返納しなければならぬという方が年々私は増えているというふうに

考えております。そういったことで、私は、バス利用の無料、割引、免許返納者にそういったことも考えてもいいのではないかなというふうに思っておりますけれども、市長はどのような形でこういった方々を支えていくのか、どういうふうに考えているのかお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 地域交通というものの取組をこれからさらに始めていきます。その過程で、市民協働課、市民協働に関して、地域交通に関してということを進めていきます。

もう一つ、地域地区センターの中で、地域の中で地区センターのポジション、そして、地域交通ということもあります。その辺のところのつまりプランニング、構築を始めていきますので、その中で、新たな仕組みの中に組み込んでいきたいと思っています。ただ、提案として、そういうふうなことはほかの市町村でもありますし、よいことだと思います。なおかつ、今低料金で走っている部分もありますので、免許返納することによって経費が浮く方もいます。様々な交通に関する負担の仕方というのは、考えていかなければいけないところです。ぜひ、その辺のプランも含めて、これからの中で話し合いをしていきたいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 実際のところ、課題山積でございますので、その辺は御理解願いたいと思います。

次に、行政区合併についてですが、井戸端会議の中でもいろんな意見が出ておりますし、地域の議論が尽くされていないという意見が多かったというふうに私は見ております。また、一方では、遠野町、松崎町においては、全く触れられていないという市民にとっては、不平等とは言いませんけれども、何でそっちはやらねえんだというような意見もあり、意味不明なものとなっています。市長は、見直しの考えはしない、のようでございますけれども、新しい仕組

みとしての自治会の交付金は少なく、当然自治会の会費によって運営されます。自治会は、自治会の会費によって運営されます。高齢化社会、高齢化率57%、老人世帯からも会費を徴収すると、老人による老人のための自治会になろうとしています。行政区合併は、予算捻出に苦勞し、役員選出に苦勞し、コロナで出席も少ない中で現在進行しています。

前回は質問いたしました、本当に合併のメリットはあるのか、メリットはないのではないかと。それは自治会組織そのものの合併みたいなものがありますから、そういった面も含めてですけども、合併によって活性化できると市長はお考えなのかどうかお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 新田議員が今課題山積だとおっしゃってました。そのとおり課題山積なんだと思います。自治会再編、そのほかの再編もあります。最初に、必ず不具合は生じると思います。その不具合を話し合いをしながら修正していくと、新たな折衷案をつくっていくということもこれ必要なことだと思います。高齢化という問題もあります。新たに変化していく部分も、これはあると思います。こうやって再編していったけども、さらにこういう再編をするということだってあるわけだし、進化していかなければなりません。いずれにしても、始めたときに不具合はあると思います。これ、全く調整つかないことに直面しているかどうか、まずはそこに挑戦していただきたいと思います。その上で、必要な部分があれば、みんなで話し合って変えていかなければいけないと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） やるしかないということだろうと思いますが、そのやり手そのものがなかなか手を挙げないというのも現実でございます。

次に、空き家の活用についてであります。

先日、私はある人に空き家を案内いたしまし

た。農地もついで、田んぼ、野菜も栽培してみたいと、無農薬をやってみたいと、そういうものでした。空き家バンクに登録しているものは、もう値段が何百万、何千万という値段がついて、売れる物件になっています。それは写真つきで、中も間取りも見ることができます。

一方、空き家を貸すという物件はなかなかありません。かといって人が住まなくなれば、家の中も空気もよどみ、廃りも早いものです。住み続けている家を処分することはつらいことです。そういうことではありますが、前もって意向調査などをして、スムーズに貸す側、借りる側ができればと思うのですが、今、高齢者社会の中で高齢者の方が自分で生活することが難しくなって、自分の子どもの生活圏などに行く場合が多く見受けられます。そして、空き家になってしまいます。様々なケースがありますが、その意思があったならば、空き家も廃れないうちに貸すこともできるのではないかというふうに私は考えました。人口減少対策の1つとして、空き家対策が重要なことを担っております。市長のお考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 全く議員おっしゃるとおり、重要なことだと思います。使わなくなると人の体温が入らなくなると、どんどん廃れていきます。その前にしっかり家族や後見される方と相談をして、どういうふうにするかということをお話しをしていただきたいし、その意向を早めに行政のほうにも伝えていただくと。その上で、使えるうちに使う、貸していただくということを進めていかなければいけないと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） そういったことが個々でやれるものでもございません。それこそ地区センターを中心に、どの程度の空き家があるのか、どの程度1人住まいでも来月からいないよとか、そういった把握が必要でありますし、ま

たそれを遠野市全体として捉える、担当するところも必要ではないかなと私は思いますけれども、ぜひ考えていただきたいと思います。

次に入ります。次に、シカ対策ですが、今さら言うまでもありません、シカ対策。私の自治会でも、昨日総会がありました。その中で、皆さんから出てくるお話、それは、8割、9割がシカ対策の苦情と申しますか、何やってんだと、そういった諦めにも似た、そういう気持ちの声が多々述べられました。そういったところで、市においても、1億円を超えている県内での最大の被害者であるというふうに思います。これからは、イノシシ被害も出るものと思いますが、抜本的な対策が改めて求められております。わなかけや駆除隊の皆様には、日夜活動していることには頭が下がる思いであります。しかし、それ以上に増え続けているのも現実であります。この課題が出てきますと、近隣市町村云々というふうな話になりますけれども、やはり遠野市での対策、そういったものも必要と思います。聞くところによれば、放牧地、荒川牧場、そういったところの新しい草、除染した後に新しい草も出ておりますけれども、シカに食われて牛の食べる草がなくなっているという話、市長も耳にしているというふうに思いますけれども、これは、畜産の振興にも大きな影響を与えるものというふうに私は思っております。今年度は、シカで悩まない地域にしたいというふうに思うんですが、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 本当に悩ましい問題だと思います。捕獲は遠野市は強めているほうだと聞いています。実際数もそのようです。しかし、まだまだ足りないというのが現状だと認識しています。ハンター、例えば若い女性もそういうことに関わっていただくということも必要だし、今放射能の関係で、ジビエ料理はなかなか進みませんが、大槌町では、逆に全頭検査をする上で、ジビエというのでも進めており

ます。ほかの滋賀県やその近郊でもジビエは進んでいます。同時に、モンキードックというのを聞いたことあると思うんですけども、追い払う犬という訓練もしています。やっていないのは、東北では岩手だけです。関西、近畿ではかなり多いです。その成果を上げているところもあって、私も視察に行ってきました。市長になる前ですけど。かなり効果はあるようです。これからのタイミング、やれることを集めて、情報集して、やれることはまずやってみるという姿勢が必要だと考えています。したがって、これから研究会、検討会を立ち上げて、次何をやってみる、どういうふうにするということを追求していきたいと思います。よろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） モンキードックの話ありましたけれども、ドローンで追い払うというのも聞いたことがありますけれども、いずれにしても時間がかかることをございますけれども、本当にこういった悩みというものをなくしていただきたいというふうに私は思っております。そして、この前、新聞で、農業新聞で拝見しましたけれども、宮城県においては、そういったジビエの処理施設が今年からオープンすることが載ってございましたけれども、一方で、地元でシカの肉といいますか、殺した後にそのシカをどう処理するのかというのも大きな課題だと思います。この前、平泉のナンバーをつけた車が附馬牛に2台上がってきました。そしてシカを求めて鉄砲の音がしましたから、多分狙って撃ったんだろうと思いますけども、例えばですけども、以前にもありましたが、冬ですから、土の中に埋設することができないということで、雪をかぶせて見えなくしておく、そういうようなこともありますので、ぜひそういったのも含めて、そういったシカのしかばねといいますか、そういったものがいろんなうちの周りとか山とか、どんどん埋められるのかと、そういったことも、やはり改めて考えていかなきゃ

ならないというふうに思います。答弁は要りません、時間もありませんから。いずれシカで悩まない地域、そういったものを求めていってほしいと思います。

次に、駅舎について質問いたします。15日の全協において、今までの遠野駅舎の改築整備に係る関係団体説明会の結果が示されました。この駅舎については、本来、現駅舎の存続を求めてスタートしたものと私は思っています。その後の経過において、JR側としては、お客様に対して耐震面において安全が保たれるかどうか難しいと。早めに改築したいというような話だったというように私は思っております。その後、様々な案が浮上し、JRあるいは市と一緒に造っていきましようというような話もあって、その後、A案、B案といいましたか、いろんな形で私たち議員にも示されたこともあります。今回の部分で見ますと、AからEですか、ありますけども、その試算した結果、数十億、三十何億というのもありましたけれども、そういう事業費が上げられております。もちろん市のみで払うわけじゃなくて、JRと一緒にそれを負担すると、事業費を負担するということになるかとは思いますが、私は、今大きなホテルが必要なんでしょうか。それから、大きな入浴施設が必要なんでしょうかと考えます。そういうまたいろんな状況もありますけれども、そういった中で、それこそ今そういった流れの中での見直し、そういったものが必要と思うのですが、市長の考えをお伺ひいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） いろんな状況対応をしていくということは必要だと思います。まずは情報を市民の皆さんに共有させていただきました。なかなか駅舎に関する事について情報共有ができなかったという部分もありますし、情報が少なかったという部分もあります。その中で、担当課、苦心して進めておりました。ただ、コロナ禍において、JRさん側の経営状態も変わってきました。遠野市ももちろん楽ではあり

ません。すぐこういう形で建て替えしましょうとか、そういうことの結論は出せません。ただ、今までの交渉の過程は尊重します。その上で、さらに前に向いてどういうふうな形で持っていくのがいいのかということをもた、前回に限らず、市民の中で話し合いをして、議論して提案し合って、最終的には市民の皆さんの総意に基づいて結論を出していきたいと私は考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） この駅舎の課題、私は井戸端会議の資料見ましたけども、誰一人として駅舎の課題について触れている人ありません。そしてまた、今市長は全市民と言いましたが、そういった中で、そういったニーズといいますか、意見といいますか、そういったものをこれから用意して集めて、そして判断するという事なのか、この懇談会は、ほとんど私から見れば、その団体は観光協会もそうですけども、あの辺の近くの方々だけと言えば失礼ですよ、だけと言えば失礼ですけども、そういった主な方々の団体ですよ。やはりもっと、であればもっとざいのほうの声なり、多くの市民の声というものはどのようにして集めて、どのような結論を出そうとしているのかお尋ねします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今、駅舎を考える会というものがございます。その中でも情報共有とか、様々な中間報告等をするべきだろうという考えから、前回させていただきました。これから市民の総意をどのように形どっていくかということについては、またその中で話をして、私の考えとしては、小さな拠点も参加していただいて、意見の集約を進めるべきだというふうに思っています。ですから、少なくとも特定の人たちだけで話をするということはありませんので、次までそういう形でどうやって意見を集めるかということの話はするかと思います。またその部分については広げていきたいと思

ますので、よろしく御理解ください。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 実は、私もこの考える会に2回、3回出席しておりますけれども、以前には、今の駅舎をそのまま残す、耐震強度を図れば残すと、そういった意見も多々出ていました。しかしながら、そういう結論は出ぬまま、ずっと考える会は進んできたんだろうなというふうに思います。そしてこの資料を見ますと、今後の進め方、現駅舎の存続の可能性についても協議というふうに載っていますけれども、私は、気持ち的にはそのまま存続するのは大賛成ですけども、新たに三十数億かけてホテル、あるいは入浴施設、そういったものに対しては、非常に遠野市民としては違和感を感じますけども、もう一度市民の考え方、今、小さな拠点を通してというような話がありましたけれども、小さな拠点の役員だけなのか、あるいは、市民はそこに座ってこの問題を投げかけて、そこで意見を聞くのか、そういったこともやっぱりきちっとやっていかないと、この考える会の方々にも納得できないものというふうに思いますけど、その辺についてお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 結論ありきの議論をするべきではないと思っていました、私は。ただ、前市長が進めてこられたことを、お話し合いしてきたことを尊重しつつも、相手のあることでもあります。その辺は尊重しつつ、やっぱりその状況に応じて相談するべきと思っています。また、現在の遠野市が38億円という金額を出せるか、じゃあ20億円なら出せるかという問題じゃないです。とてもその借金をさせるということは私の心の中では重いです。ですから、新たにこの議論を進めていきたいというふうに思っています。状況も変わっているので、その辺も含めて整理していかなければいけない、こう考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） そうしますと、JRと市と2つの団体でこのように協議しているわけですが、市長としては、どういった意見を集めて、どういったところで結論をですね、厳しく言えばそうですけども、そういったところで市民の声をどのような形で吸い上げて、どういったところできちんと結論出すのか、その辺について、考えがあったならば伺いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 結論を出すには少し時間がかかると思っています。時間をかけて相談していきたいと思っています。その上で結論を出したいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 時間をくれという答弁だったというふうに思います。私個人的には、やはり遠野市の方向として、農林業を中心とした民泊を含めたそういった形での交流の仕方、そういったことを求めた方がこの遠野らしい農業、林業をうまく利用した宿泊施設等々、そういったことにもっと力を入れたならば、もっとよくなるのではないかとというふうに私は考えています。その辺については、市長が決めることだというふうに思っております。

次の質問ですけども、市民センターの駐車場の無料化について質問いたします。市民センターは、社会教育施設であり、スポーツの大会や大ホールでのイベントなど、多くの市民、市内外の皆さんが利用するところであり、また、市民の健康管理としての市民プールやトレーニング室、あるいはスポーツ少年団等の利用とか、いろんな形で利用されております。それは、団体によっては、無料の団体もあるかとは思いますが、遠くから来ている、ファンタジーでも何でもそうですけど、遠くから見に来ている方々には、完全に有料になっております。やはり、そういった面を考えると、裏の

ほうの整備も必要ですし、あのままで有料ということは、非常に私は考え方がちょっと違うのかなというふうに思います。

この前、水田利活用の見直しの説明がありました。100名近い方があえりあに集合し、また駐車場もほとんどざいのほうから来ていますから、駐車場も満杯になるぐらい入っていました。説明会終わりましたけれども、やはり渋滞して、非常にあそこでイベントがあるたびに渋滞して、裏から出ればすぐ出れるんですけども、それもできないということで、非常に、雪もありましたし、使い勝手の悪い市民センターの駐車場だと私は思っています。そういう面で、ぜひどんな市民が行っても無料で使える、中に入れば有料ですよ、これは。中に入れば有料ですけども、せめて駐車場は無料にして、みんな使ってくださいよと、こういう形にやっていくのが私は行政サービスだと思いますが、どうでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 確かに行政サービスです。非常に厳しい質問だと思います。課題山積、財政苦しい状況、その中で経営を考えていかなければなりません。様々な料金とか費用を見直していかなければ、これからの遠野市やっていけるんだろうかという状況もあります。その点も含めて考えていかなければいけない課題だと思います。ただ、その構造的なもの、これ、何かの動線を変えることでより使いやすくなるのかどうなのか、その辺についてはしっかりと見ていかなければいけないと思います。また、ある部分、会議やその他については無料化している部分もありますので、その辺も活用しながら、今のところはどうぞ御対応をいただきたいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 時間もありませんので、以上で市長の分の質問は終わりにさせていただきます。

次に、教育長にお伺いいたします。小学校の今後のあり方についてお伺いいたします。

児童の急激な減少、複式学級など、今後の小学校のあり方について不安を持っています。コミュニティスクールだ、学校運営協議会だと言われても、コロナによって学校行事など参加することも認められておりません。そんな中であって、令和4年度予算の地域学校協働活動推進員が載っています。これは、どのような方が選ばれ、どのような形で活躍するものなのか、その役割についてお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。なお、感染予防のため、教育長はマスク着用のまま答弁いたしますので、御了承願います。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校運営協議会と、これを構成する委員は、法によって対象学校の所在する地域の方、それから在籍する児童生徒の保護者の方、それから社会教育法で規定する先ほどありました地域学校協働活動推進員またはその運営に資する活動を行う方、そして教育委員会が認める方というふうに4つほどの規定がございます。

御質問にありました地域学校協働活動推進員の役割でございますけれども、地域と学校が連携・協働して行う活動、これをいわゆる地域学校協働活動と申しますが、地域の方々と学校との間の情報共有を図ること、そして活動を行う方々に対する助言とか援助を行うこととされてございます。

本市におきましては、この推進員の役割を担う方をエリアコーディネーターと位置づけておりまして、各中学校区に1名を配置する予定としております。

中学校区の学校運営協議会の中には、中学校の部会、そして中学校区にある小学校の部会を設置する予定でありまして、学校運営協議会には、エリアコーディネーターが出席し、中学校区全ての地域の情報を伝え、協議することとしておりますし、各部会におきましては、エリアコーディネーターとともに地域の代表の方が出

席していただいて、その学校またはその地域に応じた課題の解決の協議をするということになってございます。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 時間がなくなりましたので早めに読み上げますけれども、次に、小さな拠点とのかかわりについてお伺いいたします。

何回も言いますが、高齢化社会の中にあって、これからのコミュニティスクールという立場から、学校側として地域にどのような関わり方が必要なかを求められていると思いますが、その内容についてお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校運営協議会と小さな拠点による地域づくり、この運営の関わりということでございます。先ほど答弁申し上げたとおり、エリアコーディネーターは、地域や学校への思いを聞くため、地域の会議に参加をいたします。

現在、地域には、小さな拠点による地域づくりの運営組織が11地区、そして地域教育協議会も11地区に組織をされてございます。今般各地域においては、この学校運営協議会制度の導入に併せて、地域の実情に応じた、組織体制の見直し等の検討を進めていただいております。

この制度を導入する令和4年度、これは、試行の年と位置づけておりまして、ふるさと教育を柱にした、小・中・高を貫くキャリア教育について、エリアコーディネーターの調整のもと実施していただき、子どもたちのキャリア形成を図ることにより、最終的には地域の課題解決にも資するような活動となるよう、来年度は成果と課題を明確にできるよう取り進めてまいりたいと考えてございます。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） ちょっと内容わかりにくいところありましたけれども、小さな拠点の中に学校教育に関する組織というものをつくる

ということでしょうか。お尋ねします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校運営協議会というのは、学校に設置することとしてございます。よって学校と地域をつなぐ、つまり小さな拠点でつくられた地域をつなぐものがエリアコーディネーターの役目ということでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） エリアコーディネーターがつなぎ役ですと言いましたけれども、それは、小さな拠点と学校をつなぐ役割と、こういうことでよろしいですか。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 議員お見込みのとおりでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 子どもは宝というふうに言われますけれども、その子どもたちを地域、あるいは学校、両方で育てていくんだという気持ちだと思えます。

次に、最後になりますが、小学校のこれからの展望についてお伺いいたします。

それは、小さな学校は親から敬遠されるのでしょうか。小学校入学時には、より児童数の多い学校を目指してきます。それには、クラブ、あるいは塾など、大きな要因もあると思いますが、このままですと小さな学校の先が見えてきません。切磋琢磨する機会が少ない、授業制約があるなしなどの課題もあるようです。答弁をお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） まず、現状といたしまして、本市の児童数の推移ということがございます。市村が合併した翌年度の平成18年度は1,607人、学級数にして80学級ございましたが、令和3年度は1,073人、66学級となっております。

ます。

この16年間で児童数が534人、学級数にして14学級が減少しており、今後においても、この傾向は続くものというふうに認識をしているところでございます。

今後の学校教育ということでございますが、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に展開するとともに、学校運営への保護者・地域の積極的な参画を促し、社会に開かれた教育課程を推進するというのが今後の学校教育でございます。

具体的には、昨年度、GIGAスクール構想によりまして1人1台端末の整備をいたしまして、この端末の活用によって、個別最適な学び、協働的な学び、具体的に言いますと、それぞれ児童の一人一人の探究活動に対応する、もしくは家庭学習の取組に資する、協働的な学習でいいますと、オンラインによる交流活動や遠隔授業といった協働的な学びも今後取り進めることができるということでございます。

少子高齢化というのは本市の課題でもございますが、この中で一番大切なのは、子どもたちにどのような力をつけてあげられるか、そういう環境が提供できるかということでございます。現在、このICTを活用した、いわゆる遠隔授業等も含め、その子どもたちへの環境資源の提供に努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午後2時53分 休憩

午後3時03分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

次に進みます。7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 菊池美也です。国際政治力学の理不尽さを強く感じるここ数日でございます。

通告に従いまして、質問をいたします。

人口減少や新型コロナウイルス感染症への対

応などにより国及び地方公共団体の財政状況が厳しさを増していく中、全国的に今後ますます多くの公共施設が老朽化による更新時期を迎えてまいります。遠野市でも公共施設等総合管理計画が策定され、個別の施設ごとに長寿命化、そして、統合・廃止を含めた今後の在り方について示され、着実に計画が進行されているところであります。

これからは、公的負担を抑制しながら、新たなビジネス機会の創出による地域活性化の実現を図りつつ、効率的かつ効果的に良好な公共サービスを提供していくことが、その方策が求められてくると思います。

P F I の導入促進がさらに求められていると認識しております。プライベート・ファイナンス・イニシアチブ。頭文字のPとFとIをとってP F I。プライベート、民間の、ファイナンス、資金、イニシアチブ、リーダーシップと計画。

指定管理者制度とP F I、どちらも民間の手法を使って、より効率的により効果的に施設運営などをしていく手法ですが、指定管理者制度は人に着目した制度、市役所のある種の業務は民間のほうがうまくできると、施設の管理を市役所の公務員がやらなくても地元の会社・団体が管理をすれば、コストも下がりサービスもよくなり、かつ市役所は本当に役所がやるべき業務に集中できる。遠野でも幾つかの施設について、その管理者を選考し、指定し、管理・運営してもらっています。

一方、P F I の主眼は、民間の資金や投資の活用です。民間の資金と経営能力、技術力、ノウハウを活用し、公共施設等の設計から建設、改修、更新や維持管理、運営まで一体的に一括で行っていただく公共事業。こんな施設を造って運営していきたいがという行政の考えに、構想の段階で建物の設計案・運営案を募ってプロポーザルにかけ業者を決定いたします。P F I は、企画・計画段階から運営に至るまでの民間のアイデアを最大限活用できる発注方式です。民間のノウハウを活かすことで、市民が喜ぶ施

設を建設・運営することが可能となるようでございます。また、設計から運営までの長期一括発注で経費削減の効果も期待ができます。良好なサービス提供と財政健全化が期待できる官民連携の手法のようでございます。

全国のP F I 事業、どうなっているんですか、どんどん伸びています。いや、聞いたことねーなあとという方もいるかもしれませんが、全国的には右肩上がり。一度、リーマンショックのときに落ち込みましたが、その後の件数と事業費はぐぐっと伸びています。事業件数、実施団体数は、着実に増加しています。

なお、全P F I 事業については、内閣府のホームページにリストが掲載されていることを申し添えさせていただきます。

最初の質問をいたします。市民サービスの向上や公的負担抑制への観点などから、公共施設の整備や維持管理等における民間の能力を活用することの重要度が増しています。指定管理は、既存の建物、施設などについての運営を、当該自治体や外郭団体にとどまらず、公募などで広く募った事業者に委ねる制度。一方、P F I は構想段階から、民間の資金、ノウハウを活かしながら進めていく公共事業。遠野市における、これまでのP F I の取組と今後の方針についてお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 昨今というよりも、以前からP P P、民間の力を使いましょうということが訴えられるようになって、P F I ということにつながってきたわけですね。現在は、その中でも、例えばB T OとかB O TとかB O Oとか、様々な手法が入っております。

遠野では、調べましたところ、学校給食センター、庁舎などについて検討されたというふうになっております。学校給食センターなどは、効果が出やすいものだ理解しています。

まず、何よりも昨今でいえばB T Oという方式が多いんだらうと、これ、固定資産税の問題もありますけれども、建築コストが下がるとい

う部分が大きいようです、どうも。そしてその後、運営する側は固定資産税のどういう扱いになるかということを除いては、その最終的なところでは利益が出る。利益が出るという部分に特化して、やっぱり民間事業者というのは考えていくわけで、例えば、今、広域でごみ処理をする、北上そのほかの地域とやっているわけですが、これではBTO方式を取られているようです。一番のメリットは建築コスト、運営コストということになります。

遠野でも、これからある可能性はあります。ただ、人口規模が少なく、事業規模が小さいと、そこまで至る部分がどういうものかと、民間の利益としてはどうかという部分もあります。様々検討するに値することだと私は考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） BTOに取り組んだというか、検討したことはあるという御答弁でございました。PFIは、まだないんだなということでございます。

国としては、法律、PFI法を定め、支援もしっかりやるということで完全に国家戦略として位置づけられています。

PFIをやるとまちがどうなるの、遠野がどうなるの、ちょっと事例を挙げてみます。

パークPFI、ある種、公園の民営化と聞いていいのかもしれませんが。広島県福山市です。図書館の前に原っぱがありました。けど、何にもなかったんですね。そこにPFIを活用して地元の事業者が全て民間のお金でめちゃくちゃおっしゃれなカフェを造ったんです。何でこれがPFIなのかというと、福山市は公園の管理ごとその民間会社に任せた。カフェで売上げた利益を基にこの公園の維持管理もやってください。そうすると何が起こったかということ、地元の自治体・福山市から見ると、この公園の維持にかけていた管理費が浮いてまいります。カフェの売上が上がって税収が増えます。そして、何にもなかった原っぱに人流が生まれました。よ

いことづくめ、市民によし、事業者によし、行政によし、三方によし、最高の空間が出来上がっています。

何となく、PFIって節約みたいなイメージが残りますが、それだけではありません。地域の価値がものすごく上がる。地元の事業者が関わっていますので、地域の仲間とかが何かやろうぜと、マルシェに取り組んだり、図書館と連携して司書さんが出てきて青空の下で本の読み聞かせが行われたり、ワークショップをやったりということが起こり始め、毎週末に何かしらの民間による自主イベントが繰り広げられているようです。何もなかった原っぱに民の力でにぎわいできました。周りのお店や商店街にも良い影響が出ているようです。不動産価値・地価も上昇しつつある。

町なかの公園だからできたんでしょ。いやいや、静岡県の沼津市はグランピングにPFIを活用しています。キャンプ場を自治体が運営しているところもありますが、PFIにより森の中に素敵な空間が出来上がった。

さらに、東京のど真ん中、南池袋公園、大都市のど真ん中でもいけちゃう。本来、都市公園法で、建設・建築には様々な規制がありますが、国家戦略です。特区や規制緩和で乗り越えることができている。うまく活用すれば、地方のデジタル田園都市でこそ、豊かな空間をつくり上げることができるのではないのでしょうか。

じゃあ、遠野だったらどうだろう。例えばです、高清水の展望台、おしゃれな空間で雲海を眺める。運動公園の遊具がある広場にカフェがあったら、清養園の跡地、子どもの城構想、想像が膨らみます。

安倍政権時に大号令、国家戦略。しかし、その実績には、人口規模等により大きな差があり、特に人口20万人未満の地方公共団体において導入が進んでいない現状です。

大きい自治体ほどやっている。政令市での実施割合は95%、20万人以下の人口規模になると6割以下に低下してしまいます。10万人未満となるとその実施率は僅かに13%、小さい自治体

ほど事例が少ない。むしろこれから伸びしろ、チャンスがあると考えましょう。

国では、令和3年6月にPPP/PFI推進アクションプランを改定しました。地方公共団体等への導入促進に向けた積極的な支援を実施し、上振れの国家予算も組まれています。

質問いたします。従来、PPP/PFI手法導入優先的検討規程の策定は、人口20万人以上の地方公共団体に要請がなされておりました。アクションプランの改定に伴い、内閣府及び総務省の連名で、人口10万から20万人の自治体についても、2023年度、令和5年度末までの策定に関する要請が発出をされております。

本市における優先的検討規程の策定状況についてお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今、PFIの中に様々な方法があって、BTOとかBOTとかがあります。それは、固定資産税をどうするとか、ビルドするという部分をどうするとか、そういうふうなものです。したがって、手法がどんどん変化して、進化しているというふうに捉えていただければと思います。

恐らく、あれを使ってこうするとか、やっぱりそういう話っていうのは楽しくなりますね。どんどん前に向いてく話っていうのはいいと思います。

その中で一つ考えなければいけないのは、PFIを使わなくても民間ができるもの、例えばそこを開放することによってできることというのはたくさんあります。高清水のところ、いいですね。やっぱりすばらしい、あそこに登っていけるようにしたいとか、様々私も夢を持っています。その中で、キッチンカーが行って、普通に商売できるとか、公園の中でもできるよとか、そういう機会を広げていくということも一つ重要なことかなと。

PFI、その中で恐らく一番、今、美也議員のほうからお話があったことは、BTOって言われるような手法のものだと思います。これも、

民間がやる、そこに管理がくっついていく、だから、経費的に帳尻があるっていう計算でやっていくわけですね。市のほうも、費用が削られるし、軽くなっていくと、こういう手法はこれから必要だと思います。

そのほかにも、やっぱり問題はファイナンスのところだと思いますので、ファイナンスをどういうふうに持ってくるかという部分が出てきます。言ってみれば、例えば本の森も、御寄附を頂いて市が若干ファイナンスをつけたとすれば、その運営を民間がやれば、それこそPFIの形にすぐなる。ただ、今回の場合は、そういうふうな手法でなくても、安藤先生から多額の御寄附を頂けたというようなものだと理解していただければと思います。

この部分をしっかり使っていくわけですが、どこでメリットをつくって、どこで利益を生むかということを考えながら、PFIの優先順位、優先検討規程、この策定は必要になってくると考えています。遠野市で、そういう案件が生まれてくる可能性はありますので、将来に向けて検討していきたい部分であります。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 私も、その優先的検討規程、策定しておいたほうがいいんじゃないかという思いで質問、改めてさせていただきます。

コロナ禍で遠出ができない日々が続く、最寄りの公園や図書館などの公共施設の重要さに気づいた方も多いのではないのでしょうか。官民連携の新しい公共事業の姿を模索できればいいなと考えております。

優先的検討規程、対象となる事業について、従来手法よりも効率的・効果的な実施手法がないかどうか、まずは検討することを原則と定めるルールであり、導入効果を簡易的に調べる方法や具体的な手続をまとめたガイドラインになります。公共施設を建設あるいは大規模改修する際には、まずPFIを検討してみようというものです。

10万人の人口規模を下回っている自治体でも

策定が済んでいるところが実際にございます。この優先的検討規程をつくっておくべきではありませんか。本規程をいつ頃策定するのか、見解を聞きたいと存じます。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 策定期間については、まだ未定でございます。ただし、今、議員がおっしゃったように、これはつくっておくという部分では必要なことだと認識していますので、今の遠野市が抱える課題に対して、どういうふうに対応していくかというところを考えた上で、必要な優先規程というのはあるべきと理解しています。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） PFIをやると、東京から大企業が来て、利益を全部持って行ってしまふんじゃないか、横文字ですし、何となくそんなイメージがある。地元の企業からも、俺たち参加できないんじゃないの、こういう心配が上がるかもしれません。令和元年度の地域企業の参画割合の実績は87%、代表企業の割合は47%。ちゃんと地域経済の振興にも役立っています。これまで大規模公共事業が特に多かったのですが、今後、小さな事業にも活用されるようになれば、この割合はもっと増していく。地元企業ならではのノウハウ、地域特性を活かせそうです。

PFIの活用によって税金を使わなくなっちゃったら、つまり自治体の歳出が削減されたら、その分、地方財政措置、自治体に来るお金が減らされるんじゃないか、心配もあります。減りません。国から自治体に来るお金は減りません。国家戦略です。やった分だけ地方自治体の財政が助かる、別の投資に回せる。

しかしながら、ノウハウを持っている人とそうじゃない人、持っている地域と持っていない地域とでは格差が生じるのが自明です。この格差が、PFIを活用している都市部と活用事業が少ない小さな自治体の実績に表れています。

人を手配することが大事、国が費用を持って、専門家を派遣するスキームも用意されています。また、初期投資、地元だけじゃなかなか厳しいよなところには、PFI機構・ファンドも用意されているようでございます。

質問いたします。民間を巻き込んだ手法としてのPFI、行政、金融機関、大学等の関係者が集い、PFI事業のノウハウ取得や官民対話等の情報交換の場、いわゆる地域プラットフォームが全国各地で数多く設置されています。官民の対話を通じて、地域関係者のPFIに対する理解度が向上し、PFI事業の形成につながっていると聞いております。

現在の遠野市におけるPFI地域プラットフォームの参画状況についてお尋ねをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 現在、そういうプラットフォームが求められているということは、PFIをどうするかということも同時に、どういうふうにして地域を運営していくかという上では、非常に重要なことだと理解しています。

そこで、産学官そして金、これらの対話というのは非常に重要です。当市も、様々な大学とも関連しているはずですが、最近ではDX、その部分でも大学との関係というのは重要になってきています。その辺も含めて民間ノウハウの活用の仕方、多種多様な方法がありますので、これは検討していかなければなりません。

地域のプラットフォーム形成・参加、これに関しては、若干遠野市は遅れているかもしれませんが、これから課題、重要な課題の一つとして取り組んでいくべきことと認識しています。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） プラットフォームには参加をしていない、そのとおりですよ。PFI、これからやっていこうという段階ですから。

その点についてちょっと質問をさせていただきます。都会はエンタメが充実しています。我がまちにだって、おしゃれなすてきな空間を民

の力でつくることができるはず。自然豊かな中で建物がいい感じになるだけでも、そのエリアの魅力が物すごく上がる。

国家戦略です。内閣府及び国交省は、PFIプラットフォームの活動を積極的に支援しています。参画はしていない、でしたら、遠野としてPFI地域プラットフォームを立ち上げてはいかがですか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） それは、状況によって選択肢の一つになると思います。さらに、民間投融資、これも進めていくという考え方を持っていないと、行政だけが先に行っても進みません。それから、土地の利活用、公共が持っている土地の活用、そこに建物を持っていく、もしくは施設を持っていく、その上でのメリット、組み方、これらも小さい市町村としては考えていかなければなりません。

私は、まず民間にできることを民間の力でやって利益を出していただくという方法を推薦して行って、事業を促進していきたいなと思います。その中で、民間であっても行政と話をする中で、PFIのシステムを活用するとか、BTO、BOT、この辺のところを活用するとかっていうことは出てくることになります。

ちなみに、これから必要な施設についても、その検討の範囲に入ってくると思います。いずれ遠からずそういう状況は来るだろうと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 優先的検討規程あるいは地域プラットフォーム、準備ということがあっていいのかなという思いで提案させていただきました。どの公共施設にこれを当て込みなさいというわけじゃなくて、考える、検討するということが大事になると思いますので、用意だけはしておくべきのかなという思いでございます。

遠野を離れた同級生や後輩たちが帰省した際

に、「おしゃれな建物建ってんじゃん」「変わってんじゃね」と少しでも思ってもらえれば、都会志向から原点回帰に流れを変えることにつながるかもしれません。

デジタル田園都市時代のリーダーとして、市長にはPFIに積極的に取り組んでもらいたい。国と自治体の財政が厳しくなっていく中で、官と民が力を合わせて知恵を出し合いながら、新しい遠野の魅力をつくり出ししていく、ウィズコロナの遠野のポテンシャルをPFIによってさらに高めていくことを、今後、期待をいたします。

ここからは、教育長にお伺いいたします。

平成25年の春に、8校の中学校がその歴史を閉じ、3校の市立中学校と、花巻清風支援学校遠野分教室中学部がそれぞれ開校・移設されて、令和4年度は10年目を迎えるところでございます。議会でも中学校再編の調査特別委員会が設置されるなど、様々な調査と検討・協議を経て、現在の状況にあらうかと存じます。当時、様々なことが懸念されておりました。

最初の質問をいたします。学校設置者として、中学校の再編について、総じてどのような評価をしているのか教育長にお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。先ほども申し上げましたが、教育長は、感染予防のため、マスク着用のまま答弁いたします。御了承願います。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 本市における中学校の再編は、平成19年6月の遠野市立中学校再編成検討委員会の設置から約6年間を要し、その間説明会等を115回開催し、延べ2,236人に及ぶ市民との協議等を経て、平成25年4月に新設校3校として開校しております。

中学校再編は、義務教育の目的である社会において自立的に生きる基礎を培う環境の提供と、急激な少子化の進展及び複雑かつ激しい社会変化の中、「知・徳・体」のバランスの取れた人間形成と「生きる力」を育む教育環境の充実に向けたものであり、基本的視点として、20年ほ

どの見通しの中で再編成の効果が期待できるものとして策定された計画でございます。

再編後これまで、中学校区単位による新たな学力の向上策やふるさと教育を柱としたキャリア教育等を進め、小中学校が連携した取組を推進してまいりました。

中学校再編から9年を経過する現在、小中学校の相互の連携が進展し、子どもたちの生きる力が育まれてきているものと捉えており、再編により期待していた効果が見えてきていると評価しているところでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 20年間で視点を目標を設置して、目標というか期待、効果の評価をすることを設定していたようですが、その中間点で確認をさせていただきました。総じて目標を達成できている、成果としてよいものとして受け止めているということでございます。

それでは、再編計画では部活動の選択が広がるか競争の意識が高まることなど、効果が示されたかと思えます。生徒への教育効果については、どのような評価をしているのでしょうか。また、もし課題がありましたら、併せてお示しください。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 生徒への教育的効果につきましては、学力向上と、それから部活動の状況に関わって答弁をさせていただきたいというふうに思います。

遠野市が実施している学力調査は、知能検査と学力検査を組み合わせ実施しておりまして、「知能から期待できる学力」を発揮できているかどうかを評価の一つの観点としております。

中学生においては、知能から期待される学力を発揮している生徒の割合が、平成28年度の72%から、令和3年度には84%となっており、この向上が認められる状況でございます。

一方、部活動の選択肢においては、各中学校男女ともに5種類程度の部活動が選択できる学

校規模を目指す計画としておりましたが、おおむね達成している状況にあるとともに、個人競技などで部活動以外の校外活動にも取り組む生徒の活躍も増えている状況でございます。

部活動等の主な実績といたしましては、遠野中学校サッカー部の県中学校総合体育大会優勝や遠野中学校、遠野西中学校野球部の県新人大会優勝、遠野東中学校、遠野西中学校の全国中学校総合文化祭の出場など市内3中学校がまさに競い合うように大きな成果を上げているほか、生徒個人の多様な活動においても同様に成果を上げている状況でございます。

このような活躍の背景といたしましては、3中学校それぞれが切磋琢磨しているとともに、生徒同士が相互に目標に向かって成長し合う教育環境が整ってきているものと推察しているところでございます。

生徒への教育効果に関わっての課題といたしましては、ふるさと教育に関わって地域の伝統・文化について伝えることのできる地域講師の担い手の高齢化や人材不足に対応した体制の再構築の必要性等、地域との連携が挙げられます。

これらにつきましては、来年度からスタートする学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティ・スクールにおける地域との連携・協働の協議の中で解決していきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 部活動の成果については、個人活動のみならず、文化部、体育部、成長が見られているということでございますし、ちょっと課題としてはふるさと教育の部分、地域との連携、これがもう少し頑張っていかなければいけないんじゃないかという認識のようでございます。

地域との連携について、それらの重なる御答弁になるかもしれませんが、通告しておりましたので、質問させていただきます。

中学校再編により、歴史を閉じてしまう寂し

さとともに、中学校がなくなってしまう、地域の活力が失われる、地域が衰退してしまうなどの心配の声も上がったことを承知しております。地域づくりの視点からは、この中学校再編、どのような評価をしていますか。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 議員御指摘のとおり、当時、中学校再編による地域活力の低下や地域の衰退等を心配する御意見も頂戴してございました。

特に次代を担う中学生への地域の芸能文化の継承などの取組については、様々な議論を経て学校と地域間の調整により、現在、総合的な学習の時間の中で魅力ある学校づくり事業を活用し、地域の講師の指導を頂きながら郷土芸能の伝承活動にも取り組んでおるところでございます。

郷土芸能の伝承活動の取組の大きな成果としましては、先に紹介しました全国中学校総合文化祭のステージ発表で「語り部」や「しし踊り」、「御祝い」を披露することができたこと。さらには全国大会出場を地域の方々大変喜んでいただくとともに、出場に係る経費の一部を地域の皆様の御寄附により支えていただいたことが挙げられます。

このような生徒の頑張りや実績は、地域にとっても大きな喜びとなり、地域活力の高揚や発展に寄与しているものと評価しているところでございます。

学校運営協議会制度を導入することにより、学校と家庭・地域の課題の共有と解決に向けた具体の協議が進み、地域に開かれた学校運営と児童生徒の人材育成の充実が図られるものと考えてございます。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 地域住民の皆さんが学校の運営に参画する制度、コミュニティスクールの導入が全国でも進んでいます。2017年の法改正で教育委員会の努力義務となり、文部科学

省が全公立校への導入を目指しています。導入された公立学校は、昨年5月時点で全体の33%に当たる1万1,856校に上っています。

遠野においても、御案内のとおり令和4年度からコミュニティスクール制度が始まろうとしております。地域に開かれた学校から地域とともにある学校へ、新たな取組となります。

教育長には、令和元年、2019年12月定例会の一般質問においても、コミュニティスクールについての認識と御見解を御答弁いただいております。2年ほど前と現在とでは状況の変化があるのかもしれませんが、コミュニティスクール導入を直前にして、改めてお尋ねさせていただきます。

コミュニティスクールによって期待される児童・生徒への教育的な効果はどのようなものがありますでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） コミュニティスクールによって期待される、児童生徒への教育的な効果にはどのようなものがあるかという御質問でございますが、令和元年12月定例会での議員の御質問に対しまして「学校運営協議会を設置したことにより期待される成果とすれば、子どもたちが生きる力を育むことである」と答弁させていただきました。その考えに現在も変わりはありません。

令和4年度教育行政推進の基本方針では、小中高を貫くふるさと教育を柱とした遠野市キャリアパスポートを活用し、12年間を見通した取組を進めていくことについてお示しさせていただきました。

このキャリアパスポートは令和2年度、ふるさと教育を柱に再構築し、児童生徒のキャリア形成を目指す一つの指針的なものとして策定をしたところでございます。

この取組を、コミュニティスクールの中に位置づけ、地域で学習活動を支えていくことにより、子どもたちの生きる力を育むことに資すると考えてございます。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 今、コミュニティスクールによって、教育長がその効果として期待するそのうちの一つは、子どもたちの生きる力を育む、そこに資するというところでございました。

それでは、次の質問です。コミュニティスクールによって地域と学校の連携が深まれば、子どもに多様な学びを提供できるだけでなく、生きる力を育むだけでなく、新型コロナウイルス対応などで業務に追われる教員の負担軽減にもつながると言われています。

地域や家庭との役割分担により、教員の残業時間を平均で約3割減らすことができたという岡山県の小学校もあるようでございます。

導入することによって、学校・教職員に対する効果としては、どのようなことを教育長は期待いたしますか。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校・教職員に対する効果として期待されることは何かという御質問でございます。

令和2年度の国の実証研究報告書によると、コミュニティスクール導入によって校長が成果を実感したこととして、「地域人材が活用されるようになった」が最上位にあります。それに伴って、「新たな教育活動の時間が生まれた」、「学習指導の創意工夫が図られた」など、教育活動そのものの改善が実現したという効果を感じてくる割合が高くなってございます。また、御指摘いただきました「教職員の働き方が改善された」というふうに効果を感じている割合も年々高くなっている状況でございます。

本市においても、今挙げました3つの効果は期待されるものと考えております。そして、これら学校・教職員に対する効果が、子どもたちの成長につながるものが何よりも肝要なことであると捉えてございます。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 厳しい気候であるとか、生活上のいろいろな必要もあって、自然発生的に存在していたかつての地域のつながりは、今は半ば作動的にやらないとなかなか築いていけないのかもしれない。

P T Aにコミュニティ、Cを加えたP T C Aで、多様化する子育てニーズに対応し、わらすこの育ちを見守っていくことが、これまでも、今後も望まれてくるところであります。

コミュニティスクールでは、住民がやりがいを感じながら学校を支える活動に参加できるようなしくみが求められています。京都市内の小学校では、住民が地域に伝わる遊びやものづくりを児童に伝えたり、校内清掃や図書室の本棚の整理について、保護者でもなく、御家族の中に児童生徒がいなくても、積極的にお手伝いをしております。これまでもふるさと教育を通して、地域の皆様と学校、深い関わりを持ってまいりましたし、その取組は当然のことながら継続されていくことと思っておりますが、改めて地域づくりの視点でC Sに期待する効果についてお考えを伺いたいと存じます。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 令和4年度遠野市教育行政推進の基本方針で申し上げたとおり、本市の学校運営協議会は、地域の皆さんの学校運営への参画を得て、ふるさと教育の推進、学校や地域を取り巻く諸課題への対応を進め、地域で子どもたちの生きる力を育むことを目的としております。

地域づくりの視点で期待される効果についてという御質問でございますが、繰り返しになりますが、令和元年12月定例会での議員の御質問に対しまして、「学校運営協議会を設置したことにより期待される成果とすれば、子どもたちが生きる力を育むことである」と答弁させていただきました。また、「地域の方々が学校運営に関わることで、地域の方々が自己有用感を感じられる等、相互補完的で相互成長できる成果

が期待できる」とも答弁しており、その考えは現在も変わってございません。

学校運営協議会は、令和4年度初めて設置する予定であります。令和4年度は試行の年、令和5年度を本格実施の年と位置づけております。来年度は、試行しながら成果と課題を明らかにし、よりよい取組となるように取り進めてまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 文部科学省のコミュニティスクール制度検討会議は、学校運営協議会に児童生徒が関わることも提言をしています。学校生活に関する子どもたちの要望に耳を傾け、核家族が多い状況の中、世代を超えた交流がより大切になってくるものと考えます。コミュニティスクール制度そのものを知ってもらうための情報発信と環境の調整により工夫を凝らしていただくことを求めて質問を終わります。

散 会

○議長（浅沼幸雄君） お諮りいたします。本日の会議はここまでとし、散会いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後3時49分 散会

